



選ばれるペットボトルたれ！



藤井 大司郎
広報戦略委員会委員
教授 経済学部

真っ暗な入り口をくぐったところで、そこだけが明るいステージから「県内トップの大学に来ている大学生の皆さん」という呼びかけが耳に飛び込んできました。いつもの大学会館ホールとは違って、何やら不思議で一寸危険な雰囲気がちこめています。ステージには、あらかじめ知っていなかったら、最近テレビによく登場す

るカリスマ風マジシャンとでも間違えそうな男性が、それこそ今から始めるマジックへ聴衆を引き込もうとでもしているように、会場を埋め尽くした学生諸君に話しかけているところでした。学生諸君の方も、「これは通常の就職セミナーとは違うぞ」という不安と期待がこもった熱い静けさを保っています。セミナーの講師を務めるのは全国の大学を飛び回る就職講演会のナンバーワン講師、坂本直文氏。黒いスーツに黒いワイシャツ、これに無地のグレーのネクタイという出で立ちで、ご本人の説明によれば、このネクタイを刀に見立てて、あの坂本竜馬をイメージしたコスチュームなのだそうです。

こうして「劇的内定術」の著者、坂本氏の講演ならぬ“公演”

が始まりましたが、やがて、最初の瞬間に熟年男の大学教員が感じた危険感の的中してしまいました。このマジシャンが指示するままに、客席の隣や前後の見知らぬ男女学生同士がペアをつくって「伝えなければ伝わらない大人のコミュニケーション」の模擬実習がその場で始まってしまったからです。例えば「第一印象チェックワーク」では、互いに向かい合っ

て相手の出身や性格を図々しく言い当てる、自己PRを相手にぶつける、初対面の相手の「いいところ探し」を一方的にする、とレッスンが大騒ぎの中で進んでいくにつれ、薄暗い中でも、あの普段の山大学生の態度や表情がみるみる変わっていくのが分かります。渦巻く熱気の中で取り残されているのは、YUインフォの取材記者であ



マジックのように聴衆を引き込む坂本直文氏



熱気に渦巻く大学会館ホール

る私だけです。

様々な銘柄のお茶ペットボトルを小道具にして、坂本氏は、あたかも「就活ではあなた方はコンビニに並んだひとつひとつ銘柄の違ったペットボトルですよ」とでも言うように、（中身は同じものでも？）ネーミングやデザイン表現による「第一印象付け」が勝負の大半を決めてしまうという就活の一面の本質を強く印象付けてくれ

ました。また、エントリーシートを書く際に、（大学の授業の通弊のように？）「複雑化、抽象化のワナに陥るな」とか、読む気にさせるように「出だしで（なんだろう？と）引っ張り、あとで（なるほど！と）ストンと落とせ」は、まんざら就活術だけに言えることではないな、と妙に納得させられました。

坂本氏のメッセージはこうでし

よう。県内トップの大学に来ている大学生の諸君が持っている中身こそが大事です。大事だからこそ、それを逃げ足の速い一瞬のチャンスに「手にとってもらえる」ハウツーを一寸した努力で身に付けてはいかがですか？

今回参加しなかった君、次回は体験してみないと損です。面白く興奮するショーの中で、君の人生が変わってしまうかも。

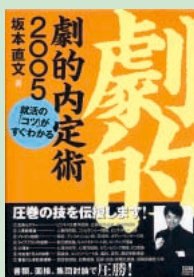
坂本 直文氏 プロフィール



就職講座の人気講師。就職対策講座と経済学の講座を担当。

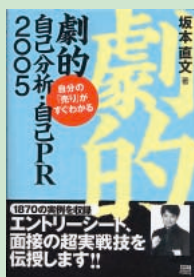
自らの人事部長としての経験と、経済／企業分析を駆使した的確なアドバイスで、ソニー、高島屋、ANA、などの人気企業をはじめ、ベンチャー企業、公益法人まで多数の内定者を輩出する。

尚、法政大、早稲田大、明治大、明治学院大、立命館大、龍谷大、福島大、など全国10数大学にて年間50回以上講演し、非常に高い評価を受けている。その著書「劇的内定術」は就職活動を始める前に、是非読んでおきたい一冊。



「劇的内定術 2005」

- ☐ 就活のトータルサポート。全てが分かる実践的就職本の最高峰！
- ☐ 全章改訂、新規内容も大量加筆。
1,600円(税別)
(10月第1週発売／ソフトバンク)



「劇的自己分析・自己PR2005」

- ☐ 自己分析、自己PRの基本・応用が全て分かる。事例、実戦技の最高峰！
- ☐ 人気企業やマスコミ志望者に特に
お勧め。(事例1830以上掲載)
1,600円(税別)
(10月第1週発売／ソフトバンク)



「劇的 筆記面接 即効トレーニング」

- ☐ 筆記対策の最高峰（SPI＋一般常識＋性格テスト＋時事問題対策）
- ☐ 一人のできる面接トレーニング・ビデオCD付き。超お得！
1,500円(税別)
(新聞ダイジェスト社)

Learn-by-doingで就職活動を考え直す



植村 高久
学生支援センター長

就職氷河期は 終わったが……

以下では民間企業への就職活動を中心に述べます。就職氷河期と呼ばれた厳しい時期は終わりつつあるようです。少なくとも全体としての求人数では、増加が見込まれます。それでは、就職活動が楽になったかと言えば、必ずしもそうとは言えません。企業の要求水準は概して高く、水準を満たす人がいなければ、求人予定数に満たなくても無理に人を採らない企業が大半です。

問題は企業の要求しているモノです。ハウツー本などにはいろいろ書かれていますが、まず、それが具体的にどういうものなのかよく分からないことが多いし、果たして自分にそういう能力や適性があるかどうか判断できない。そういう悩みをもつ人が多いと思いますが、重要なことは今の大学3年生（あるいは修士1年生）は大半がほとんど同じ状況にあるとい

うことです。ここで悩んでいても始まりません。

就職活動の考え方

まず、就職活動では待っていても何も得られません。「就活に行け」と言ってくれる人はいません。時期が来れば、他人がどうであれ、自発的に就活を始めることが必要です。2つ目は、準備が必要だということです。就活のために、必要なモノや手順があります。まず、この準備を怠らないようにして下さい。3つ目ですが、就職活動で最も役立つのは、経験だということです。というより、経験からより多くを学ぶ、つまりLearn-by-doingが就職活動の基本だと思います。

就活への準備

まず、リクナビ等に登録し、自宅（下宿）でインターネットを使える環境を用意して下さい。現代の就活の大半は、リクナビなどで送られてくる情報を読んで、企業のHPでどんな企業か調べる。ネット経由でエントリー（説明会などへの登録）をやり、メールで連絡するなど、ネット利用が中心になっています。他に、業界研究本や就職用の「四季報」なども必要です。

とにかく「会社」に出会ってみる

しかし、ネット経由で就活をいくらやっても、就職に対する具体的なイメージは湧いてきません。最初は会社のHPをみても、「四季報」を見ても訳がわからないと思います。どんな会社か？どんな仕事をするのか？これは、実際に説明会に行ってみないとなかなかつかめません。そのためには、たくさんの会社の説明会に実際に行ってみる必要があります。広島、福岡、場合によっては東京などのケースもあり、お金がかかっても、会社を知るために必要な投資だと考えて、できるだけたくさんの会社と出会ってみて下さい。

実際には、業種・職種などよりも、会社との「相性」というか、「ここならば話が通じる」「働けそうだな」という実感がかかなり重要です。ですから、実際に就職するかどうか別にして、いろいろな会社の説明会をとにかく覗いてみることをオススメします。

企業研究・業界研究や自己分析が出来ていないから…と心配する必要はありません。説明会は業界や企業を説明してくれる機会ですから、説明会を通じて業界を調べることができますし、自分が何がやりたいのか、どんな人間なのか、自分もエントリーシートを書いたり面接を繰り返し受けたりすることではっきりさせることができます。

経験から学ぶ

逆説的な言い方ですが、「内定」をもらうことが就活の目的ではありません。経験を積めば、企業に対する知識や面接の技能が身に付きますが、もっと大切なことは各自が自分なりの居場所を見つけ、社会との“折り合い”をつけるための知恵が得られることです。いろいろな会社、いろいろな仕事を見てみて、「ここだったら頑張れる」、「社会人として何とかやって行けそうだ」という場

所、つまり「適職」を見つけ出して下さい。

最後に—— 「適職を 自分で選ぶ」が基本

就活は不公平で偶然です。友達が早々に「内定」をもらって就活を終わっているのに、なぜ自分だけ決まらないのだろうか、面接は失敗ばかりとか、自信喪失に陥ることも少なくありません。そういう場合は、就職支援室の相談の

利用をお勧めします。社会人としてやっていけるという“自信”が持てない状態では、けっして「内定」はもらえません。「どこでもいい」などと考えたとたん、どこからも相手にされなくなります。自分に自信が持てる精神状態を維持して、どこまでも居場所を「自分で選ぶ」姿勢が就活の基本だと思います。

学内連絡先

TEL：083-933-5593

E-Mail：uemura@yamaguchi-u.ac.jp





YYジョブサロン in 山大



平尾 元彦
学生支援センター 助教授

YYジョブサロン in 山大開設

本年4月12日、吉田キャンパスに「YYジョブサロン in 山大」が開設されました。山口県若者就職支援センター（愛称：YYジョブサロン）の支援拠点を学内に設置するもので、山口大学の学生の利用はもちろん、学外の方の利用も可能です。県と大学が連携して地域の若者の就職活動を支援する、本学の地域貢献の取り組みのひとつでもあります。

オープン当日は午前10時からの相談コーナーに早速4名の在学生・卒業生が訪れ、午後からのミニセミナー「面接力を強化しよう！」には13名の学生が参加して、面接対策に取り組みました。

ジョブ・ブランチ・インキャンパス

山口県若者就職支援センター

は、若者のための就職情報の提供・相談・能力開発・職業紹介等の一貫した支援を行うワンストップサービスセンターとして、平成16年4月に設置されました。

同センターには、ジョブ・ブランチ・インキャンパスという仕組みがあります。これは、大学のキャンパスをセンターの支所と位置づけて学生への支援活動を展開しようというもので、本学もブランチ校のひとつです。これまで授業への協力やセミナー・個別相談会の開催、学部主催の就職ガイダンスへの講師派遣などの支援をいただいてきました。

本年4月から設置している「YYジョブサロン in 山大」は、この支援拠点を常設化し、かつ、地域に開かれた拠点としたものです。4月から毎週火曜日に相談コーナーを設置しましたが、ほぼ予約で埋まる状態が続きましたので、8

月からは木曜日を加えた週2日体制にいただきました。

4月から9月までの実績では、個別相談延べ108名、うち15名は一般の方の利用です。このほか、グループでの面接指導130名、ミニセミナーには149名が参加しました。

多彩な支援メニュー

個別相談では、就職活動の悩みや質問に、キャリアカウンセラーの先生が丁寧に応じてくれます。エントリーシート対策や就職活動再構築セミナーなどミニセミナーも開催してきました。学生たちが仕事を理解できるようにまた、「仕事探求カフェ」というシリーズセミナーも開催し、法人営業の仕事や県庁の仕事などを語っていただきました。今後も就職活動に役立つセミナーをどんどん企画し



YYジョブサロン in 山大（吉田キャンパス）

ていきたいと思っています。どうぞ積極的にご参加ください。

このほか、7月の七夕祭、11月の姫山祭にもYYジョブサロン企画を出店し、親へのセミナーや適職診断など実施してきました。

工学部にも支援拠点

10月19日よりYYジョブブラン
チ in 山大☆工学部の相談コー
ナーを設けました。毎週水曜日は常
盤キャンパスにて、キャリアカウ
ンセラーの先生が相談を受けま
す。ミニセミナーも随時開催して
まいります。工学部、理工学研究
科、医学部、医学系研究科はじめ
宇部地区の皆さん、どうぞご利用
ください。

相談することは重要

学生の皆さんにとって就職活動

は、自分の将来の道を選ぶ重要な活動です。だから真剣に考えてほしい、行動してほしいと思っています。でもなかなか難しいのも事実でしょう。皆さんにはご家族の方や友人、そして、大学の先生や職員など応援してくれる方は身近にたくさんいます。わからないこと、困ったことなどしっかり相談してください。

山口県若者就職支援センターのキャリアカウンセラーの先生方は、プロのカウンセラーとして、客観的かつ真剣に皆さんの相談にのっていただけます。「働くことをリアルに考えることができるようになった」「面接練習して自信がついた」「自分らしい志望動機を一緒に考えてもらったので、面接で堂々と言えた」など、相談してよかったという4年生の声はたくさん届いています。

吉田キャンパスは毎週火曜日と

木曜日10時～17時、山口大学就職支援室（共通教育棟）にて。常盤キャンパスは毎週水曜日13時～17時に工学部就職相談室です。希望者は若者就職支援センターに電話で予約してください（TEL 083-974-5120）。なお、予約のない時間帯は当日の直接申し込みも可能です。

学内連絡先

山口大学学生支援センター

TEL 083-933-5145

hirao@yamaguchi-u.ac.jp



YYジョブランチ in 山大☆工学部



YYジョブサロン・キャリアカウンセラーの皆さん

学内インターンシップ制度を実施

山口大学では、これまで学生を企業・官公庁等へ派遣するインターンシップ事業を展開していますが、さらに、平成17年度から、学生の高い職業意識を育成し、次代を担う学生の職業人としての成長を支援することを目的に、初めて学内インターンシップを実施しました。

初めての取り組みということで、今年度は対象者を山口大学に在籍する修士課程1年生と学部3年生に限定して実施しました。計18

名の学生から応募があり、10の部署で応募者全員を受入れました。

インターンシップは、9月5日～30日までの間に1週間の期間ずつ行い、実習生は各職場において、さまざまな業務の体験をしました。実習生は、最初は緊張していましたが、徐々に慣れ、分からないながらも、仕事の面白さと大変さを感じたようで、実習終了後「学生と社会人の意識の違いを感じ、また、学ぶことができました。今後の就職活動において大き

な糧となる貴重な経験となりました。」などの感想が寄せられました。

実際に学内インターンシップに参加した面田彩子さんの体験談を紹介します。

学内連絡先：総務部人事課

TEL：083-933-5028

E-mail:sh029@yamaguchi-u.ac.jp



施設環境部（左）総合図書館（右）での学内インターンシップの様子

学内インターンシップを通して



面田 彩子

人文学部 人文社会学科
社会情報論 3年

楽しかった インターンシップ

「山口大学で初めての試みとなる学内インターンシップ制度を導入した。」という情報を受けて私は以前から大学という組織がどのように動いているのか？またどのような仕事を職員はしているのかということに関心があったことと、実際にインターンシップをし

て職場体験をしたいと思っていたことからすぐに申し込みをしました。

そして9月26日から一週間の期間で、総務部総務課でインターンシップをさせていただくことになりました。最終日に「実習はどうだったか？」と聞かれて答えた私の率直な感想は「楽しかったです。」でした。「楽しい」と一言でまとめてはいますがその中には

「とても充実した、有意義な、学生ではもちろん経験できない貴重な時間。」という言葉たちが含まれていました。

緊張の5日間

最初の3日間は総務部総務課広報・調査係という部署にお世話になり、実際に山口大学webページのWEEKLY NEWSを作成し、掲載したり、保護者向け通信の「宅配便“山口大学”」の一面の取材をさせてもらいました。また空いた時間に広報・調査係の仕事とは何か、山口大学は広報活動についてどのような事に取り組んでいるのかということを教えていただきました。

次に2日間総務部総務課総務係と秘書室でお世話になりました。

総務係では公文書を作成したり、公文書の受付をしたりと主にデスクワークをしました。また秘書室では秋期学位授与式が9月30日に行われるということでその準備や式のお手伝いをさせていただきました。

実際に修了式がどのように執り行われているかを知り、自分が卒業する時は裏方で卒業式を支えてくれた方々の気持ちも含めて式に臨みたいと思いました。

インターンシップを通して

5日間を通して内容がとても充実したものであったので忙しくても満足度が高くて「疲れた。」とは思いませんでした。それは私が至らないところを職員の皆さんが

フォローをしていただいたからですし、また私が疲れないようにと気を遣っていただいたからだと思います。実際、空いた時間に職員の方と話をして気が休まりました。

学生のすべきことの一番は勉強です。でもその勉強も講義を受けて、演習を受けてノートをとることだけではなく、このようにインターンシップや学外での経験も勉強だと思います。このように少し回り道をしながら学生生活を送るというのも悪くないのではないかと思います。「さまざまなチャンスを自分でみつけて挑戦することによって人はますます成長できる。」と改めて思った一週間でした。ほんとうに一週間ありがとうございました。



保護者向け通信「宅配便“山口大学”」の取材の様子

どういった山大生が必要とされる!?(山口県庁職場紹介)



松浦 聡子

山口県庁 国民文化祭推進室
総務班

はじめに

県職員となって、今年で9年目。
税務、土木建築、文化行政に携わ
ってきました。

しかしながら、県の業務全体に
ついては、多種多様なため、とて
も把握できてはおらず、この状況
で、今回のテーマ、「企業側から
見た山口大学生、どういった山大
生が必要とされる」について、県
全体を代表して的確な意見を云う
ことはできそうもありません。

そこで、ここでは県庁業務につ
いて紹介することに留めたいと思
います。少しでも、学生の方々の
就職活動のヒントになればと願っ
ております。

最初の職場(県税事務所)

入庁して3年間、岩国地域での
納税に関する業務に携わりました。

国税、県税、市税、皆さん区別

がつかますか?何の税金がどこで
収納され、どのようにどこで使用
されているのか…。

法人県民税、法人事業税、個人
事業税、自動車税、軽油引取税、
等々があって、初めて県の財政は
成り立っています。貴重な税金を
各地に出向いていただってくる仕
事(徴収)や、集められた税を適
切に収納する仕事、多くお預かり
していた税金をお戻しする仕事
(還付)、入札や車検等を受ける
際に必要な納税証明を発行する仕
事等に携わりました。ここでは、
税法を常に勉強することもちろ
ん大切ですが、人との接し方が最
重要事項です。勉強ばかりしてい
て人との気持ちの良いやり取りが
できないようでは、見込める収入
が見込めなくなるだけではなく、
身の危険すら生じます。

県税事務所は県民局とともに、
最も広く住民の方々の意見を耳に
することのできる職場です。

土木建築事務所

前職場(県税事務所)は、庁舎
の維持管理に関する職務以外は、
私を含め全員事務系職員でした。
が、この次の職場、「下関土木建
築事務所」は、82人の大所帯中約
半数が技術者という、技術系職員
あつての職場でした。

道路、河川、海岸、砂防、急傾
斜などといった土木工事、木造建
築物、鉄筋構造物等の建築工事を

扱うわけですから、土木工学や建
築方面を学んだ技術者が多勢を占
めます。私のような事務系職員
は、2~3年毎に、税務をしたり工
事契約をしたりと、様々な業務を
転々としませんが、基本的に技術職
で採用された職員は、土木関係採
用であれば土木のまま、農村整備
関係採用であれば農業土木関係の
まま、同じ職務に従事します。

ここでの事務吏員の職務として
は、工事契約(入札等あり)、建
設業法に係る許認可(業者の経営
事項を審査したりもします)、用
地買収等があげられます。同じ事
務職で入っても、携わる業務の内
容は様々です。

現在の職場 (国民文化祭推進室)

土木業務の後、文化行政を学ぶ
ため文部科学省付けの研修生とし
て、文化庁芸術文化課(国民文化
祭業務所管)に1年間配属となり
ました。研修を終えた後、山口県
国民文化祭推進室に異動し、現
在、「第21回国民文化祭・やまぐ
ち2006(略:国民文化祭やまぐ
ち)」という全国規模の文化の祭
典を成功させるべく奔走している
ところです。

平成18年11月3日、文化の日を
皮切りに10日間、「国民文化祭や
まぐち」が開催されます。県内一
帯を会場に、北海道、鹿児島等々
全国各地から文化の担い手がここ

山口県に集い、作品を発表し交流を深めます。現在、事業の会場となる17市町において、「美術、舞踊、演劇、ファッション、映画等の特色あふれる事業」と「おもてなし」の準備が着々と進んでいます。

ここで宣伝。この国民文化祭についてのHP (<http://www.kokubun-yamaguchi.jp/>) がこの11月3日にリニューアルされました。どこでどんなイベントがあるのかわかる開催地マップ、県内高校生による記事、国民文化祭を自発的に応援してくださっている方々企画のイベント報告、マスコットキャラクター「山口きららバンド」出演の県内外各地の催し物報告等、盛りだくさん！掘れば掘るほど味わいのある、ウナギの寝床のようなHPを目指しております。興味のある学生の皆さん、是非ご覧ください。

きらら博の5年後に「国民文化祭」、「国民文化祭」の5年後には全国規模の体育大会（国体）が開催されることから推察されるように、この「国民文化祭やまぐち」は、県づくりの起爆剤となるべく、本県全体が総力をあげて取り組んでいる一大イベントです。職員には、アイデア、実行力、スピード、タイミング、センス、コスト意識等が求められます。お役所勤めで得ることの難しい経験を培うことができる職場です。

最後に

どの職場に配属となるかによっては、仕事や人間関係で悩むこともあるかもしれません。年に1回秋頃、希望業種や勤務地についてのヒアリングがありますが、希望に添わないことの方が多いぐらいです。が、意外にも、望まない職種に取り組む際、新たな発見ややりがいが見いだされるもので、そこは常に前向きに吸収し、自らのキャリアに磨きをかけて欲しいと思います。大学で得た知識や情報

が、ひょんな場合に役立つことは多々あります。現に、私は、技術職でなく事務職での採用ですが、山口大学理学部で学んだ経験は様々な場面で役立っています。

是非、大学生活では、様々な行事に顔を出し、色々な方との交流をし、体験を積んでももらいたいと思います。また、現在学んでいる教養科目、専門科目とも、どこで役立つかわかりません。貪欲に吸収し、幅広い知識を得ることをお勧めします。



やまぐち発 心ときめく文化維新

第21回 国民文化祭・やまぐち2006

平成18年(2006年)11月3日(金・祝)~11月12日(日)

<http://www.kokubun-yamaguchi.jp/>

『自立したビジネスパーソン』を目指して



中村 新
株式会社キューブシステム
管理・企画部 部長

山口大学の皆様、こんにちは。
キューブシステムの中村です。現在、当社では3名の山口大学卒業生をお迎えしています。今回は求める人材像や活躍している卒業生の近況などについてご紹介させていただきます。

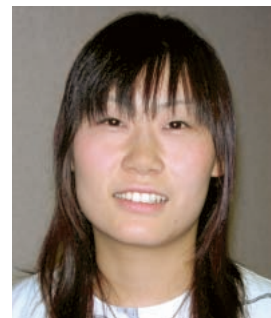
当社では、新人の時から「自立したビジネスパーソン」を目指し、各人の力量に合わせ、さまざまな仕事上のチャンスが与えられています。山口大学の理念・目標である『驚きを大切にし、「自ら」が考え・判断・表現・行動・発言する能力を養う』『あらたな問題や困難にチャレンジし、解決する力を養う』ことは、まさに当社の社員が目指す『自立したビジネスパーソン』に通じる精神です。まずは私から、当社の求める人材像、『自立したビジネスパーソン』についてご説明させていただきます。

キューブの求める人材像 ー自立したビジネスパーソンー

ITが企業経営にとって不可欠な存在となる中、新しいハードやソフトを作り出す技術だけでなく、顧客ビジネスに変革をもたらす「高度な課題解決力」と「経営感覚」が要求されています。そのような中、当社は、顧客ニーズを敏感に察知し、顧客との対話を重ね、ビジネス目標達成に邁進する『自立したビジネスパーソン』の育成に取り組んでおります。たとえば、新人研修においても、一般的な基礎知識学習に留まらず、擬似的に企業経営を体験する『マネジメントゲーム』を行うなど、経営の基礎やマネジメントの厳しさを学ぶ機会を提供しています。

これからも、『自立したビジネスパーソン』に通じる精神をもった山口大学の皆さんが卒業後、社会に出られることで、より一層成長されることを期待しております。

当社は2002年10月にジャスダックに上場、公開企業として様々なチャレンジを続けています。このような伸びゆく企業で自らの可能性を試してみませんか？意欲あふれる山大生の皆様が当社の門をノックしていただくことを切に希望しております。



富田 千尋
西日本システム事業所第1グループ
経済学部国際経済学科2004年3月卒業

入社2年目 ーキューブのSEとしてー

私は、現在某通信関係のお客様を担当し「顧客・料金管理システム」の開発を行っております。約1年半の業務で、プログラム設計からテスト工程までを経験し、現在は、テストの計画・試験項目の洗い出しから、実施までを任されています。私たちの業界では、チームで協力をして仕事を進めていくことが殆どで、ゼミや部活動での共同作業は、現在の業務で非常に役立っていると感じています。今まで学んできたこと・これからも学び続けようとする姿勢すべてが業務に繋がっていると実感しています。

今年4月入社のお二人に、 入社半年後の状況を インタビューしました。

Q 1 現在、どのような仕事をしていますか。

早川：本社で各部門の予算統制などを行う部署に所属しています。今は主に部門予算の登録・確認、各種稟議の確認などを行っています。

徳永：私は、上司の指導のもと、部門や同業他社を分析するレポート、CSR（企業の社会的責任）に関する報告書の草案などを作成しています。

Q 2 組織の中でどのような貢献を行ってきましたか。

早川：8月に実施した大学3年生を対象としたインターンシップにおいて、経営分析についての講義を担当しました。そのとき、大学で学んだ簿記などの知識をベースに、

会社での業務経験を活かし、学生の皆さんにわかりやすい内容を心がけました。

Q 3 最後に、山口大学の学生さんへのメッセージを。

徳永：時には「そんなことを新入社員にやらせていいのですか?!」と、内心叫びたく

なるような仕事を与えられ驚くこともありますが、先輩の皆さんに相談しながら進めていく中で、自分では予想しなかった大切なことを学ぶ場合もあります。さまざまなミッションをこなすごとに自分の成長が実感される日々を送っています。



早川 実伽子

管理・企画部 経営企画グループ
経済学部国際経済学科
2005年3月卒業

徳永 将豪

社長室
経済学部経済学科
2005年3月卒業

株式会社 キューブシステム

1972年の創業以来、30余年にわたり、システムの開発・設計から保守・運用に至るまで、様々な業界のお客様の中で、『システムソリューションサービス』を提供しているジャスダック上場企業です。

山口大学生の企業評価



久永 喜代志
有限会社ジオテック 代表取締役

私のこと

最初に、私のことを少し話しておきます。私は昭和46年に山口大学工学部資源工学科を卒業しました。すぐに地質会社としては最大手の会社に入社し、各地を転々して20数年。その会社を退職した後、最小規模の地質会社を立ち上げて今年で12年が経過します。また、50の手習いで山口大学大学院に入学し、3年前に理学博士の称号を取得しました。このような波乱万丈な私の人生経験をもとに、山口大学の卒業生、特に工学部と理学部の卒業生を企業がどのように見ているかについて、回顧録としてまとめてみました。

負けない山口大学生として

今の山口大学のポテンシャルは相当なものです。私が卒業した頃の山口大学は、第1グループの旧帝大、第2グループの国立一期校に次ぐ第3グループにあたる国

立二期校であり、駅弁大学と揶揄されたものです。入社した会社は、基本的には第1グループか第2グループの大学で占められ、駅弁大学からの入社は珍しいものでした。入社早々、国家的プロジェクトに他の大学の卒業生と競合させられる形で仕事をしてきました。時代もまだ良き時代で、多くの新卒者は企業の厳しさに耐えかね、2～3年で退職したものです。

そんな中、会社の会長が事もあろうに宇部の片田舎に私の恩師に会いに行ったのです。そこで言った言葉がとても印象的でした。「先生！東大でも京大でもない、弊社は山口大学の学生が欲しいんです！」と。これしたりと同行した私自身も喜んでいましたが、次なる会話の応酬に納得させられました。「東大や京大の学生の方が頭が切れるでしょうに」との恩師の問いかけに、会長は「山口大学が一番歩留まりが良いんですよ」と答えたからです。つまり、優秀な学生以前に耐える学生が欲しいという意味だったのです。

新卒者を面談してきた立場から

大企業在職中、私は就職を希望する全国いろいろな大学の卒業生と接してきました。その経験から、時代とともに学生の質の変化を感じさせられます。昔は〇〇大学と言えば、それなりの特徴があ

ったものですが、今はほとんど変わり映えしないことです。山口大学においても山口県人が少なくなっているように、どこかの大学もいろんな地方から越境して混在しているからかも知れませんが、それ以上に、昔と違って情報社会の中で若者が共有の価値観をもっていることが大きいのではないかと思います。ですから、企業から見た山口大学生といっても、今ではさほど特徴的なものはないのではないかと思います。ただ、全体的には山口大学はおとなしい学生が多いという印象が残ります。反面、企業から見た学生選別の着目点としてよく言われるのが、「クラブ活動とくに体育系のクラブ活動に熱心な学生を狙え」というのがあります。これはつまり、企業組織としての順応性という点と、何はともあれ体力・気力があればこそといった見方からです。

駆け込み寺の住職として

私は最大手の会社の支店長から最小規模の零細会社の社長に変わったわけですが、売り手市場の頃に独立したため、零細会社を希望する学生はなく、人の確保に随分苦労しました。結局、訳ありの学生を預かる形で社員にしていきましたが、これがまた妙味です。彼らは訳ありを承知ですから一生懸命頑張りますし、指導すれば伸びます。こうして駆け込み寺は活気

のあるものとなり、住職としても生きがいを感じてやってこれました。大企業には大企業の良さ、零細には零細の良さがあるもので、人それぞれ向き不向きがあります。自分の専門性もさることながら、自分にとって大きな集団と小さな集団のどちらが合うのか、あるいは指導者の資質はどうか

ど、これからはもっと自身を見直して積極的な就職活動に転ずることが肝要です。

山口大学の卒業生として

山口大学の卒業生として、これこれしかじかといった気持ちの特段に持つ必要はありません。しか

しながら、山口大学という現在の地位、ステータスは多くの先輩方の努力によって確立されてきたこと、各方面の企業や組織において山口大学の卒業生は、営々とした努力により山口大学の卒業生としての評価を高めてきたことを忘れないで欲しいのです。

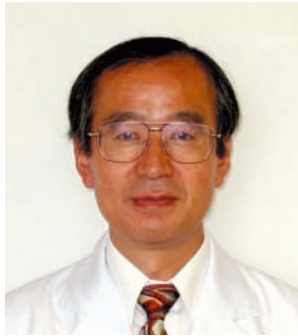


有限会社 ジオテック

日本で最も零細な会社から最も有用なプレゼンテーションを発信します。

理学と工学の融合を目指して……有限会社ジオテック <http://www.geocities.jp/geotech0208/>

Think universally, Act locally



佐柳 進
関門医療センター病院長

宮本武蔵、新撰組、源義経と、ここ3年ばかり山口に縁のあるシーンが、NHK大河ドラマの大舞台として続いています。多くの日本人にとって、ここ山口って一体何なのだろう、ふと考えました。東京、大阪で山口の話が出ると、直ぐに「ふぐ」の話になります。勿論、「ふく」（山口では濁らない）の刺身は、東京人の「ふぐさし」はもとより、大阪人の「てっさ」よりも、地元では頻回に口にします（私の家では家庭料理のひとつ）が、さりとてこれが山口らしさとは、とても思えません。河豚のトンマな面構えは、どうも山口らしさに連なりません。

山口って何？

山口は都会ではない。では、山口は田舎ですか？東京、大阪などで結構長く生活してきた私の実感からしますと、山口には何故か不思議と田舎の匂いがしません。田舎と言えば、私が長く住んだ狭山

丘陵（トトロの郷）に近い東久留米市や、サーファーのメッカである千葉県上総一ノ宮などは、首都圏にありながら間違いなく日本の田舎でした。そこは少し踏み込めば、昔懐かしい「〇〇だっぺ」の田舎言葉があり、田舎の風習がそのまま残っていて、びっくりしたものです。そういった田舎の匂いが山口にはありません。

山口は静寂な街です。もう40年近くも前のことになりますが、私が山口大生だった頃も、この落ち着いた環境で、時を忘れてカントの実践理性批判を論じたり、私の郷里（四国）の偉人空海の曼荼羅の世界に想いを馳せたりしていました。真冬の真夜中に、西の京として栄華を極めた大内文化の名刹、瑠璃光寺五重塔の雪景色の庭

で、「何が本質か」と問いながらこの世ともあの世とも分らない非現実世界を遊んだこともあります。そんな山口で身につけたものは、時と場所を超えて「普遍」を見る目であったような気がします。

歴史が彩る山口は、弥生文化の到来に始まる大陸との交流交易を地理的背景として、源平壇ノ浦合戦や大内氏の盛衰、幕末から明治維新へと、わが国の歴史の転換点で大きな役割を果たしてきました。ここ山口の多くの人は、物事の些細の裏に大事を見逃さない能力を備えているように思えます。そんな風土に培われるのか、3年前まで勤めていた霞ヶ関でも、山口大出身者は共通してしっかり者で基軸がブレないと高い評価でした。これも「普遍」を見る素養のような気がします。時にはその分、いかにも頑固に映りますが。

山口大生に期待すること

最近よく“Think globally, act locally”、国際的、地球的規模で考え、地域で具体的に実践を、と言われます。正しくその通りです。私は山口大生には更に一步踏み込んで、“Think universally, act locally”、「普遍」的にものを考え、地域での実践を踏まえて、更に「普遍」なるものを突き詰めて欲しいと願います。地域における現実に即した活動から確実に成果



を上げて、その「実践」を通してより価値の高い「普遍」を見出して欲しいと思います。

21世紀のテーマは、国民一律に金太郎飴のような画一的な価値観よりも、個々人の価値観を如何に大切にするかです。着実に進行する超高齢社会にあっては、単に国境を越えた国際的、地球規模の価値認識というよりも、時間を超えた「普遍的、人間そのものへの」しっかりとした価値認識が不可欠です。

今、私の病院には医師としての新人社会人である研修医22名が在籍しています。彼らに求めている

ものは、日本中何処に行っても活躍できる実践的な広い診療能力と広い視野、豊かな人間性です。それは言うまでもなく患者、家族、地域の方々の幸せのためでもあります。医師としての「普遍的」な生き方と自らの幸せを実現する

全てでもあります。地域が求めるニーズに応えることによって、自ら幸せを実感する素直な感受性を育むとともに、明日の医療の担い手として、それぞれの分野で果敢に歴史の扉を開く活躍を楽しみにしています。



指導医を囲む元気な研修医



国立病院機構 関門医療センター

国立病院機構 関門医療センター

病床数400床、23診療科からなる総合病院。明治24年に陸軍下関要塞病院として発足。昭和20年に国立下関病院。昨年4月に独立行政法人国立病院機構の発足で現名称に改称。患者中心の医療を病院理念として、女性外来、総合診療、救命救急センター開設、患者の権利保障、医療安全などに積極的に取り組んでいる。

企業が求める学生とは



畑田 稔

メルコ・パワー・システムズ(株)
前代表取締役社長

採用活動へのかかわり

私は昭和40年に山口大学工学部電気科を卒業後、三菱電機(株)に入社し30年余り電力システム関係の仕事に従事した後、同社の子会社で情報・制御システム分野を担当するメルコ・パワー・システムズ(株)(略称M P S)で社長として8年間勤務しましたが、この時から採用活動に本格的に関わるようになりました。山口大学工学部にも毎年春、秋2回の学校訪問を行い、先生方のご支援もあってこの間に8名の方を採用する事が出来ました。

三菱電機時代から「人材こそ財産」を痛感していましたので、M P S社でも採用活動と人材育成システムは社長の最重要業務のひとつと考え、私自身で西日本地区を主体に20校余りを巡回し、会社説明と求める人材をお願いして来ました。

この経験を生かして後輩の皆さん

に少しでもアドバイス出来ればと思います。

企業が求める学生とは

一口に企業と言っても多方面に渡りますので求める学生像についても多少の違いはあるでしょうが、本質的には同じ様な事を求めている、そのウエイトの置き方に違いがあると考えております。では本質的に求められる事と言えば

- * コミュニケーション力がある。
 - * チャレンジ精神が旺盛。
 - * 基礎的な専門知識・技術を持つ。
 - * 元気で明るい。
- 等が挙げられます。

ところが昨今企業の置かれている環境は格段に厳しくなってきたため、本質的に求められる能力に加えて更にレベルアップした能力が期待されています。その能力とは

- ①「自分で考え、自分の意見を持ち、積極的に発言する」力
- ②「問題を発見」し→「分析」し→「解決・提案」する能力

これは我々日本人にとってはあまり得意な能力ではありませんでしたが、「グローバル化した競争社会での生き残り」、「先進国における製造業のビジネス形態の転換」には必要不可欠の能力であり、企業内でもO J Tを通じて若手にこの能力を付けるべく必死に取り組んでいます。

学生の皆さんにとってこの能力

を身に付けるのはなかなか難しい事と感じられるでしょうが、実は日常の学生生活の中でこの事を“常に意識して行動”すれば段々と身に付く能力でもあるのです。例えば卒論・修論制作時にこの事を強く意識して取り組めば格好の教材となり能力が身に付いて来るはずですよ。

各大学の取り組みと山口大学(工学部)

私が毎年伺った大学は北は信州大学から南は九州工大までの国公立16大学と関西の有力私立4大学で、工学部・理学部を対象に採用活動を行いましたので以下の私見もこの範囲での話として受け取ってください。

まず私大の場合は就職担当教授の他に就職部なるスタッフ部門があって、早くから就職ガイダンスや企業説明会の設定、模擬面接など就職活動に対する支援も手厚いためか、会社面接時の学生の対応はスムーズで一見有利に見られます。

一方国公立大の場合はどこもスタートが遅く4月に入ってから本格的に動き出されるため、学生の心の準備が不十分で4、5月頃の会社面接では応対面で見劣りがする場合があります。

山大生の場合もこれに当てはまりますが、さらに言えば関西圏の学生と比較すると少し“おとなし

い” 気がします。実力等では遜色ありませんので、日頃の活動の中で楽な方に逃げないでもっと積極的に発言し、行動するよう努力して頂きたいと思います。

最後にMP S社に入社した山大学生の評価ですが、個々に違いがあり一概には言えませんが、人柄がよく、まじめで、着実に成果を上げている点では共通しており高く

評価されておりますので安心して下さい。

以上述べました事も参考にされ自信を持って就職活動に取り組まれるようお願いしております。

(注)

OJT…On the Job Training

仕事の現場で、業務に必要な知識や技術を習得させる。



総合科目「就職」工学部

メルコ・パワー・システムズ(株)

社会・生活の中核を支える電力、電鉄、公共分野を主体とした「情報・制御・通信システム」を担当し、高度な専門技術とノウハウを活用して、システム設計からソフトウェア製作、総合試験まで一貫して製作担当する三菱電機(株)直系のシステムエンジニアリング会社。

JA豊関から見た山口大学生



重村 正隆
JA豊関 人事教育課 課長

JA豊関は県西部に位置しています。平成6年4月に、旧下関市の4JAと旧豊浦郡4町（現在は下関市）のJAが合併して、「JA豊関」としてスタートいたしました。合併して12年目に入り、現在は本所と30支所・7出張所、それと6営農経済支部があります。事業は貯金・貸出・共済・購買・販売事業があり、また福祉事業にも取り組んでいます。組合員数は正・准合わせて約27,000人で、職

員数は臨時・パート職員を除いて472人です。

さて、職員の採用状況ですが、今年度は特に多く高卒・大卒含めて24人採用しています。過去3年間でみえますと、14年度が7人、15年度が11人、16年度が7人の採用となっています。

山口大学の学生さんにつきましては過去3年で、3人採用しております。男子が1人で、女子が2人となっています。3人の近況を申し上げますと、男子職員は営農指導員として、生産農家に対して、稲作や野菜の作り方からその施肥設計まで、営農全般にわたって幅広くまたきめ細かく指導しており農家組合員からとても信頼を受けています。営農指導は一朝一夕ではなかなかできません。しかし彼は、貴大学でしっかり農業の基礎を学んでおり、その卓越した指導については目を見張るものがあります。

また、女子職員2名の内1名は3年前に入組し、当初は人事課（現在は機構改革により人事教育課）に配属されました。人事課の業務は職員の給料や労務管理、また福利厚生などたくさんの仕事をこなしていかなければなりません。その女子職員は入組したばかりで、最初は何もわからなかったと思いますが、先輩から一生懸命学んで自分の“もの”にしていきました。元来、何に対しても前向きで積極的であり、明るい性格ではきはした口調は清々しく非常に好感が持てます。現在は支所の窓口として、組合員さんからとてもかわいがられています。

それからもう1人の女子職員は本所貯金為替課に勤務しています。貯金業務を統括し、支所の指導・管理を行っており、あわせて本所金融店舗の窓口として頑張っています。来店されるお客様に気



持ちの良い対応をされていますので、お客様はとても満足されて帰られるのではないかと思います。仕事はミスもなく正確に、しかもスピーディにこなしています。まだ入組して2年目ですが、仕事ぶりを見ていると2年目にはみえず、とてもよくやっていただいています。

以上3人の近況を申し上げましたが、総体的に皆、J Aにいち早く溶け込み、その才能をいかんなく仕事に発揮しています。上司から指示されたことは忠実にやってくれています。今後とも期待をしたいと思います。

最後に、学生の皆さんに望むことは何事に対しても積極的で、や

る気のある意欲的な人間になっていただきたいと思います。また、自分の確固たる信念を持ち、全力で立ち向かう気概をそなえてほしいと思います。実際に行動を起こさなければ何も始まりません。やればできるという気持ちを強く持った者こそ、企業が必要とする人材ではないでしょうか。



JA豊関

下関市を管内として「組合員にもっとよく。JAをもっとよく。職員に夢と希望と活力を」目指して、地域農業振興を図るとともに金融・共済・経済事業および地域高齢化が進むなかで福祉活動、広報活動を通じ、組合員の生活をサポートしています。

人文学部

その時の自分が



新井 里菜

人文学部言語文化学科
言語情報論コース4年

そろそろ就職活動と呼ばれる日々がやってくるな…と思ったのは3年生第1日目でした。そうこうしているともう各就職サイトがオープンし、現実的に会社が目の前に立ちあがる秋が来ます。「本気で将来のことを考えなければ…」と思わされる瞬間は誰かに触発されてやってくるものです。

私は最初、自分がよく利用する「目に見える会社」に興味がありました。例えばカフェ。雰囲気がいい、と思わせるのは店舗の内装や店員さん。しかしその裏で資金や材料の調達をする仕事もあるのだ…と思うと、だんだん職種や業種が自然と気になってきます。最初から「職種や業種を絞らなきゃ!」と悩んでも解決しないのは当然です。だんだん自然と、それを知りたくなる時期が私には来ました。きっと皆さんにも。「早くやっておけばよかった…」なんて思うかもしれませんが、来るべくしてその時期は来るのだから、それが自分にとって最高の時間や思いたと、今思います。

私はある時人生相談をして頂きました。「自分が何をしたいの

か、何が好きなのか分からない」そんな時期に、ちょうど最終面接があったのです。「時間をかけて考えてごらん」そう、面接官の方は言ってくれました。

今まで面接の中で次回面接への切符は頂いても、【時間】を頂いた会社はそこだけ。それがきくと、私にとっての転換期で重要な時期だったのだと思います。

誰にでも当然、士気が落ちたり、減入ったりする時期があります。そんなときの解決法はありませんし、結局自分が変わるまで、その時間を過ぎさせることはできませんでした。他人頼みではなく、最後は【自分頼み】。その時がくれば、きっと自分が決めることになるし、それが最大の山場だと思います。



YYジョブサロン in 山大（人文学部中庭）

教育学部

教員採用試験



中井 尚子

教育学部

学校教育教員養成課程

教科教育コース

音楽教育選修4年

私が教員採用試験に合格するために行ったことは大きく分けて3つあります。その3つを、少しでも皆さんのお役に立てればと思います、お話ししたいと思います。

勉強のリズムをつくり、量をこなす！

1つ目は、1日のノルマを決め、勉強のリズムをつくっていくことです。要領の悪い私は、とにかく量をこなそうと思い、1日最低8時間は勉強することにしていました。ただ、ひたすら勉強していてもつまらないので、自分で表を作り、やった問題に色を塗ったり、とけた問題にシールを貼ったりするなど、達成度がわかるようにし、少しでも勉強が楽しくなるよう工夫しました。

仲間と頑張る！

2つ目は、仲間と一緒に頑張るということです。一緒に教員を目指している友達と、試験や勉強方法について情報交換をしたり、集団討論や面接の練習をしたりしました。討論や面接は、練習をしているのといないのとではまるきり違います。週1のペースで仲間と練習したこと、教育について一緒に考えたことは、本番でも緊張することなく自分の意見を言えたことにつながったと思います。

教育書を読む！

3つ目は、教育に関する本を多く読むことです。採用試験には筆記だけでなく、面接や集団討論等があり、それらの対策に頭を悩ま

せている人も多いと思います。私もその一人でした。そんな時、先輩に「自分の考えが言えないのはそれについて知らないから。本を多く読んで教育についてもっと考えろ！」と言われました。そこで私は多くの本を読み、教育の様々なトピックについて考えをまとめていきました。そうすることで自分の教育に対する考えが明確になり、面接でも自信を持って答えることができました。

勉強を始めてから、自分が教師に向いていないのではないかと悩んだ時期もありました。しかし、大事なのは向いているかということよりも、自分は子どもが好き、教師になりたいという思いが今も思っています。皆さんも自分の思いを大切に、夢に向かって頑張ってください。



講義「キャリアデザイン」

経済学部

就活どうでしょう？



本山 精一
経済学部 経済法学科4年

ここでは、就職活動中、私が考えたり見聞きしたりしたことを述べさせていただきます。

会社説明会などで学生側からの質問として、特に職場の雰囲気についての質問が多かったのですが、これは難しい質問だと思います。部署や人員構成でそれぞれ違いますし、変化していくからです。ネットの情報もちょっと参考にしました。また、多くの外国人の学生が日本での就職活動をされ

ていました。外国人の方は出身国以外の海外勤務地に送り出される可能性もあるかもしれません。ただ誰もが、国籍に関係なく自分の生きる道を探していました。

筆記試験で面白かったのは某海運会社で、時事問題に関する小論文を東京の本社で書き、これを24時間以内に英訳して添付メールで送信させるなんてものもありました。面接では、説明会の時とは違う、アピールとしての当たり障りのない質問を考えておきましょう。また、少数ながら、「アルコールは大丈夫か?」といった質問や飲み連れて行かれることもありました。遠方の場合には終電に注意しましょう。大阪・東京と山口との往復で時間や体力を奪われることもありしたので、大阪・東京での活動拠点の選択肢にマンスリーマンションなども含めておかれると良いと思います。また、ホ

テルはネットで検索・予約した方が何かと便利だと思います。東京で予定がある場合には、横浜など近県で探してみると安価で空室も多いかもしれません。

うまくいかないこともありました。第一志望の地元の金融機関に落ちて気分転換にドライブに行くと、そこら中にその会社の看板があつて逆にひどい目に遭いました。五月のGWは再検討の期間として有効に利用しました。ポジティブ・シンキングの材料として、かつての超氷河期に比べればとか、団塊の世代の退職にも期待できるとか、景気も良くなってきているといったことも考えてみました。

交通費の支給もありますが、かなりお金がかかるので準備はしっかりしておいて下さい。



就職活動交流会2005

理 学 部

これから就職活動に臨む皆さんへ

漆谷 美織

理学部 自然情報科学科4年

キッカケ

まず就職活動としてしたこと
は、3年生の6月に就職サイトへ登
録したことでした。友達は、10月
頃から興味がある企業へのエント
リーを何社か行っていたようでは
したが、私は何をしたらいいのかよ
く分からなかったので、就職活動
本を読む程度で年末を迎えました。

私が本格的に始めるキッカケと
なったのは、2月末頃に博多で行
われた「毎日就職EXPO2005」で
す。たくさんの学生がパリッとし
たスーツを着て真剣に企業の話
を聞いている姿を見たことで、私も
頑張らなければと思いました。ま
だまだ本気になることができない
人は、こういった就職活動のイベ
ントに参加してみると、とても良
い刺激になると思います。

私は、このイベントに参加して
から企業へのエントリーを始めた
ので、周りの人に比べてスタート
が遅かったと思います。

スケジュール管理

説明会は、様々な日程と地域で
行われています。私の場合、
Excelで企業の一覧表を作り、説
明会の日程や自分のスケジュール

を入力していました。開催地域別
に色分けをしたり、志望度を付け
て高いものから説明会の予約を入
れたり、エントリーした企業への
リンクを貼ったりもしてしまし
た。この表を利用したおかげで、
参加したい説明会へ、より少ない
移動時間と交通費で、効率良く参
加することができたと思います。

私は、就職活動の本に掲載され
ていた体験談からこのような一覧
表を作成したのですが、実際に活
動をした先輩たちの体験談は、本
当に参考になります。もちろん成
功談もですし、失敗談もです。自
己分析や企業研究をすることも必
要ですが、ぜひ時間のある時にそ
ういった本を読んでみることをオ
ススメします。

楽しい就職活動を！

こういうと不思議に思われるか
もしれませんが、私にとって就職
活動はとても楽しいものでした。
電車でたくさんの本を読む時間が
できたことが嬉しかったし、学力
試験も適正試験も頭を使うものが
多くて面白かったし、会場近くを
歩いたり美味しいお店を探したり
することも楽しかったです。一緒
に集団面接を受けた子と、一緒に
御飯を食べに行ったことも良い思
い出です。

就職活動は自分の一生を決める
大事な時期ですが、私のようにち
ょっとした楽しみを見つけてみて
下さい。きっと、心の余裕が良い
結果を生むこともあると思いま
す。頑張ってください！！



就職情報相談室

医 学 部

良い研修を受けたい!～医学生就職活動～



北田 真平
医学部医学科6年

はじめに

2004年度より卒後臨床研修制度が必修化となり、卒業後すぐに専門の診療科へ進むといった従来の医学生の就職形式は大きく様相を変えました。卒後臨床研修制度とは、卒後の2年間で内科、外科、救急などの診療科を数ヶ月単位で研修する制度のことです。今、全国の病院が独自に研修プログラムを作成し、卒後間もない新米医師に研修の場を提供しています。それでは、医学生の就職活動の概要を簡単に紹介したいと思います。

情報収集編

全国の1000近い研修病院の研修

プログラムを調べるには、医療研修推進財団のwebページ (<http://www.pmet.or.jp/>) を参照するのが最も効率的です。研修の内容、当直の回数、気になる給与のことまで、知りたい内容が網羅されています。次に、気になる研修プログラムを見つけたら病院のwebページに直接アクセスします。病院のwebページにはさらに詳しい内容が掲載されていますので、じっくり読んで検討します。

実習編

研修したいと思う病院が見つければ、その病院へ実習に行きます。実習の内容を、採用試験の結果に加味する病院も少なからず存在するので、気は抜けません。私は実習に行ったとき10時間くらいの長い手術に最後まで参加し、その後に開かれた研究会にも出席しました。帰宅は深夜12時でした。しかし、熱意を見せたおかげか、その病院からは内定の通知を頂きました。積極的に実習に参加し、自分を売り込むことが大切だと思います。また、実習は先輩研修医に話を聞き、研修の実状を教えて

もらうチャンスでもあります。

採用試験編

病院によって、採用試験の内容は大きく異なります。学力試験を課す病院や、小論文を課す病院など様々な試験の様式があります。しかし、どの病院でも面接試験は必ずありますので、そこでいかに上手に自己アピールを行えるかが大切です。私も、入学以来頑張ってきた部活のこと、ボランティア活動のことなどを積極的にアピールしました。また、志望動機は必ず質問されるので、実習で受けた印象などを素直に表現することが必要です。

最後に

2年間の研修は医師としての人生を方向付ける上で、非常に大切なものだと思います。医療に対する世の中の期待に応えられる医師になるために、一生懸命研修に取り組む所存です。

工 学 部

就職活動を始めるみなさんへ



神野 紘隆

工学部 電気電子工学科
電子物性工学講座4年

『やるなら何でも楽しむことが一番!!』。これが私のモットーです。こんな私が就職活動において学んだこと、感じたことをここに書きます。これから就職活動を行うみなさんの少しでも助けになれば幸いです。

スケジュール管理は
大事に!!

私が1番最初にお勧めしたいことは、手帳を買うということです。これは必ずやった方がいいと思いますよ。そのうちみなさんも会社の説明会や面接などに行ったりすることになりますが、人によっては1日に何社も説明会を受けたりすることがあると思います。そんなときにしっかりと予定を手帳に書いておけば、一目で予定を

把握できるので、説明会の時間が重なるとか必要なものを忘れるなど困ることなく、スムーズな就職活動を送れると思います。また、就職活動では知らない所に行く機会が増えてくると思うので、時間にはかなりの余裕を持つこと、そしてインターネットなどを利用して前もって場所を調べておくことも重要です。

面接について

面接について1番大事なことは、相手の目を見て話することだと思います。これは当たり前のように1番難しいのではないかと思います。目を見て話することにより相手に熱意や意思を伝えることができます。だから、目を見るということは大切です。

次に大切なことは、第一希望の会社の面接の前に、一度は必ず面接の練習などを行っておくということです。例えば、研究室の先生を相手に練習したり、他での面接を経験しておくと思いいます。面接ではどうしても緊張してしまい、自分の言いたいことがうまく言えなかったりしてしまいます。しかし、一度面接を受けておくと、面接の雰囲気慣れたり、質問内容がわかったりできるので

本番では少しリラックスして臨めます。実際、私もこれでかなりうまくいきました。

そして、自分に自信を持つことも大切です。オーバーかもしれませんが、自分が相手を面接してやってみるぐらいの気持ちでやってみてください。すると、不思議と自分らしさが出せると思います。背伸びする必要はなく、ありのままの自分をありのままに表現できること、それこそが最高の武器だと思います。

最後に・・・

就職活動では様々な土地に行くと思います。今まで行ったことがない所に行けるので、ちょっとした旅行みたいで楽しいですよ。行き詰ったりしたときは、こんな感じで少し視点を変えてみてください。買い物したり、音楽を聴いたり、何でもいいので息抜きをしてみるといいですよ。むしろ、息抜きのほうが大事かもしれませんが…。

最後に、これから就職活動を始める皆さんに一言。つらいこともたくさんあると思いますが、一度しかないこの機会を十分に楽しんじゃってください。人生楽しまなきゃ損ですよ!!

農学部

私の就職活動

村瀬 晴崇

農学部 獣医学科6年

志望先の決定

幸か不幸か、僕の第一志望は早くから日本中央競馬会（J R A）に決まりました。多くの人達がどんな職種がいいのか悩む段階をすっ飛ばせたのは楽と言えば楽でしたが、選択肢が多い人が羨ましくもありました。選択の幅がある人達は「適性」なんて言葉に振り回されず、是非チャンスの多さを前向きに考えて下さい。

就職活動において

僕は一般常識や専門の勉強をすることなんて採用試験を受ける前提条件と考えていましたし、実際その通りでした（結局最終試験は面接のみがほとんど）。従って僕は勉強以外の以下の3点に気をつ

けて活動しました。

1点目は社会人としてのマナー。具体的にはE S（エントリーシート）・履歴書を丁寧に記入するのは勿論、手紙の書き方（書類を送る時は必ず手書きで一筆添える）、電話のかけ方、服装、髪型など。決してポイントを稼ごうという意味ではなく、相手に非礼がないように、気持ちよく接して頂くようにという気持ちから自然に生まれたものでした。

2点目は企業研究。とにかくJ R A・競馬について調べました。今日までの流れ、国際的な位置づけ、問題点、今後の方向性など。ネタが多いほど自分の意見に深みが出るし、それが面接での精神的な余裕にも繋がりました。

3点目はO B訪問。O Bは面識のない方でしたが、臆せず先生から連絡先を聞き、相談に乗っていただきました。就職試験は勿論のこと仕事内容や業界のあり方など

現場の人からさまざまなお話を伺うことができました。就職活動においてO B訪問は絶対必要だと思います。恥ずかしがる必要なんかありません。ドンドン連絡とるべきです。（勿論礼儀正しく）

振り返って

興味ある分野・企業の勉強、社会人としてマナーの勉強、今までの自分を振り返って自己分析と就職活動は楽しいものでした。是非後輩諸氏にも楽しんでもらいたいです。

「成績の上位者を選ったわけではありません。我々が一緒に仕事をしたいと思った人を選びました。」内定式で人事部長に言われた言葉ですが、採用する側の立場で考えれば至極もっともなことです。学力は前提条件に過ぎず、人間的な魅力をアピールする就職活動をして下さい。



YYジョブサロンミニセミナー

学生支援センター 年間スケジュール

山口大学就職講演会・就職説明会

月 日	場 所	内 容	講師・説明者
4月13日 15時～17時	大学会館大ホール〈公務員試験関係〉、 大学会館会議室〈教員試験関係〉	第1回 公務員及び教員試験 制度の説明と対策	教務担当者 (東京アカデミー北九州校)
6月15日 15時～17時	大学会館大ホール・工学部E21教室	第2回 就職試験を勝ち抜く新 聞の読み方&若手記者の就職 活動体験談	川畑政美氏(日本経済新 聞社西部本社)、編集部記 者(同)
7月13日 15時～17時	大学会館大ホール・工学部E21教室	第3回 今しなければならない就職準備	大塚英雄氏(ジェイ・ブロード)
10月12日 15時～17時	大学会館大ホール・工学部E21教室	第4回 就職活動全般の心構え	山近義幸氏(ザ・メディア・ジ ョン)
11月9日 13時30分～ 15時30分 15時45分～ 18時	大学会館大ホール・工学部E21教室 大学会館大ホール・工学部E21教室	第5回 企業の採用の展望とエントリーシ ート 就職Q&A勉強会	坂本直文氏(ダイヤモンド・ ビッグ&リード社)
11月30日 14時30分～ 18時	大学会館大ホール	第6回 人事院及び国家機関による業 務説明会	人事院中国事務局・各官 庁説明者
平成18年 2月8日 15時～17時	大学会館大ホール・工学部E21教室	第7回 面接時における留意点と模擬面 接	永江静加氏(インターナシ ョナルエアアカデミー)

学内業界・企業研究会

月 日	場 所	内 容
11月16日	工学部体育館	各業界より企業の方をお招きしての研究会
12月7日	工学部体育館	各業界より企業の方をお招きしての研究会
2月13日～23日予定	共通教育棟	各業界より企業の方をお招きしての研究会

学内OB・OG訪問

月 日	内 容
随時開催	山口大学の卒業生をお招きした仕事研究

※この他、就職相談会、ミニセミナー、就職説明会等学生の皆さんの就職活動支援に関わる行事を随時開催しています。

各学部の就職支援年間スケジュール

人文学部

月 日	場 所	内 容	講師・説明者	参加人数
4月5日 4月8日	人文学部大講義室 人文学部大講義室	新入生保護者就職状況説明会 2・3・4年生 オリエンテーションで 就職関係説明	就職支援委員会 就職支援委員会	約100名 約100名
6月21日	人文学部中庭 人文学部大講義室	4年生就職未内定者への個別 相談 就職講演会 これから始まる就 職活動	山口県若者就職支援セン ター カウンセラー リクルート広島支社 榎本 孝広氏	7名 約100名
7月28日	人文学部大講義室	就職活動リスタート・セミナー	山口県若者就職支援セン ター カウンセラー	約100名
8月3日	人文学部大講義室	就職ガイダンス 4年生内定学生による就職活動 体験報告会	学生支援センター 平尾 助教授 内定学生12名	約100名
11月 11月2日 11月	人文学部 人文学部大講義室	就職活動のための ノートパソコン活用講座 卒業生による就職講演会 自己分析・エントリーシートの作成 について	人文学部教員 卒業生 川相貞之氏 リクルート広島支社 榎本 孝広氏	
12月	大学会館会議室 人文学部第二講義室	業界研究・マスコミ 就職に役立つ コミュニケーション養成講座	NHK記者 日本マンパワー 重松政 徳氏	3年生50名
1月		4年生就職未定者への個別相 談	山口県若者就職支援セン ター カウンセラー	

教育学部

月 日	進 路		
	教員採用試験関係	公務員試験関係	企業採用試験関係
4月	■時事通信第2回公開模擬試験 準拠模試4月2日(土)【4年・3年】 ○就職講演会（13日(水)、教員 試験制度について、東京ア カデミー実施）【3年】 ■大阪市教採説明会14日(木) 【4年】 ■前期・教採試験学内模試 （教職教養・論作文(4月20日 から毎週水)、小学校全科(4 月21日から毎週木)) 【4年・3年】 ☆教採試験願書取り寄せ【4年】	○就職講演会（13日(水)、 公務員試験制度）【3年・4年】 ☆国家Ⅰ・Ⅱ種他願書受付 【4年】	■就職相談コーナー 11日(月)・18日(月)【3年・4年】

5月	■前期・教採試験学内模試 (教職教養・論作文・小学校全科)【4年・3年】 ☆教採試験願書受付開始【4年】 ■時事通信第3回公開模擬試験 準拠模試5月14日(土) 【4年・3年】	☆国家Ⅰ種一次試験・発表 ☆地方上級願書受付開始 ■就職ガイダンス25日(水)【3年】	■就職相談コーナー 9日(月)【3年・4年】 ■就職ガイダンス 25日(水)【3年】
6月	■東京アカデミー公開模擬試験 6月5日(日)【4年】 ■前期・教採試験学内模試 (教職教養・論作文・小学校全科)【4年・3年】 ■教採試験直前セミナー (一次対策)【4年】 ■職業適性検査(R-CAP等) 29日【3年】	○公務員試験対策講座開講 【3年・4年】 ☆国家Ⅰ種二次試験・ 最終合格者発表 ☆国家Ⅱ種一次試験 ☆各種国家公務員一次試験 ☆地方上級一次試験 ■職業適性検査(R-CAP等) 29日【3年】	■就職相談コーナー 【3年・4年】 ○就職試験を勝ち抜く新聞の 読み方 6月15日【3年・4年】 ■職業適性検査(R-CAP等) 29日【3年】
7月	■前期・教採試験学内模試 (教職教養・論作文・小学校全科)【4年・3年】 ■教採試験直前セミナー (一次対策)【4年】 ☆公立学校教員採用 一次試験【4年】 ■職業適性検査結果解説会 16日(土)【3年】	☆各種国家公務員一次発表 ☆国家Ⅱ種一次発表 ☆各種国家公務員 二次試験 ☆地方上級二次試験 ■職業適性検査結果解説会 16日(土)【3年】	○就職講演会(13日「今しなければならぬ就職準備」) 【3年・4年】 ■職業適性検査結果解説会 16日(土)【3年】
8月	☆公立学校教員採用一次発表 【4年】 ■教採試験直前セミナー(二次 対策：面接等)19日【4年】 公立学校教員採用 二次試験開始【4年】	☆国家Ⅱ種二次試験	
9月		☆国家Ⅱ種最終合格者発表 ☆各種国家公務員 最終合格者発表	
10月	☆公立学校教員合格者発表 (名簿登載)【4年】 ■4年生就職状況調査【4年】	■4年生就職状況調査【4年】	○就職講演会(12日「就職活動 全般の心構え」)【3年】 ■4年生就職状況調査【4年】
11月	○教員採用試験対策講座開始 (学生支援センター主催・一 部教育学部就職支援部共催) 【3年】 ■3年生第1回就職講演会・就職 活動体験報告会(30日)【3年】	○就職講演会(30日、人事院お よび各国家機関による業務 説明会)【3年】	○就職講演会(9日、「企業採 用の展望とエントリーシート の作成方法」)【3年】 ■3年生第一回就職講演会・就職 活動体験報告会(16日)【3年】 ■企業訪問開始【3年】
12月	■後期・教採試験学内模試(1日 ～)【3年および4年の希望者】 ☆臨時採用教員申込(各人が教 育事務所へ)【4年】	■3年生第一回就職講演会・就 職活動体験報告会 (14日)【3年】	
	■後期・教採試験学内模試		

就職特集 “ハローワーク山口大学”

1月	【3年および4年の希望者】 ■臨時採用教員申込(各人が教育事務所へ)【4年】		
2月	■後期・教採試験学内模試 【3年および4年の希望者】 ■教育事務所訪問(臨採依頼)【4年】		■企業就職模擬面接【3年】 ○学内業界・企業研究会 ○就職講演会(1日、「面接時における留意点と模擬面接」) 【3年】
3月	■後期・教採試験学内模試 【3年および4年の希望者】 ■教職・小学全科ビデオ講座 【3年および4年の希望者】		

(注) ○：山口大学学生支援センター関係 ■：教育学部就職支援部関係 ☆：就職試験等の動向 ※：その他
この他、企業や各県教委等の要請に応じて、説明会を開催しています。* 院生も必要に応じて参加できます。

経済学部

月 日	場 所	内 容	講師・説明者
4月4日	経済学部第2大講義室	新入生オリエンテーションでの啓発活動	就職支援委員長
4月5日	経済学部第1大講義室	新入生保護者懇談会での就職状況説明	就職支援委員長
4月6日	経済学部第2大講義室	2年生オリエンテーションでの啓発活動	就職支援委員長
	経済学部第2大講義室	3年生オリエンテーションでの就職説明	就職支援委員長
4月27日	経済学部第2大講義室	3年生第1回就職ガイダンス	就職支援委員長
5月11日	経済学部第2大講義室	3年生第2回就職ガイダンス	就職支援委員長
5月25日	経済学部第2大講義室	3年生第3回就職ガイダンス	就職支援委員長
6月8日	経済学部第2大講義室	3年生第4回就職ガイダンス	就職支援委員長
	経済学部第2大講義室	就職適正診断(R-CAP)説明会	リクルート社 榎本孝広氏
6月12日	経済学部第2大講義室	保護者懇談会(山口市)	就職支援委員長
6月15日	共通教育29番教室	就職適正診断(R-CAP)実施	リクルート社 榎本孝広氏
	経済学部第2大講義室	3年生第5回就職ガイダンス	就職支援委員長
6月19日	福岡サンパレスホテル	保護者懇談会(福岡市)	就職支援委員長
6月26日	KKR広島	保護者懇談会(広島市)	就職支援委員長
6月29日～	経済学部第2会議室	模擬面接	就職支援委員長
7月13日	経済学部第1、2大講義室	2年生第1回就職ガイダンス	労働政策研究・研修機構 小杉礼子氏
	経済学部第2大講義室	3年生第6回就職ガイダンス	日刊工業新聞社 浅野竜二氏
7月	経済学部第2大講義室	進路変更ガイダンス(公務員希望から民間へ)3日間	就職支援委員長
13・14・15日			
7月16日	経済学部第2大講義室	就職適正診断(R-CAP)結果配布・解説会	リクルート社
10月5日	経済学部第2大講義室	1年生公務員志望者向け履修ガイダンス	就職支援委員
10月12日	経済学部第2大講義室	3年生第7回就職ガイダンス(就活の進め方)	就職支援委員長
10月19日	経済学部第2大講義室	1、2年生第2回就職ガイダンス	読売新聞解説部 榊原智子氏
10月26日	経済学部第2大講義室	3年生第8回就職ガイダンス	(株)大和証券グループ 忌部肇氏
11月9日	経済学部第2大講義室	3年生第9回就職ガイダンス予定	就職支援委員長
11月30日	経済学部第2大講義室	3年生第10回就職ガイダンス予定	就職支援委員長
12月14日	経済学部第2大講義室	3年生最終就職ガイダンス予定	就職支援委員長

未定	経済学部第2大講義室	2年生第2回就職ガイダンス(就職に向けて)	就職支援委員長
未定	経済学部第2大講義室	3年生公務員志望者向けガイダンス予定	就職支援委員長
未定	経済学部第2大講義室	1年生公務員志望者向けガイダンス予定	就職支援委員長

理学部

月 日	場 所	内 容	講師・説明者	参加人数
4月5日 4月7日	14番教室 理学部	新入生保護者就職状況説明会 2～4年生 オリエンテーション就職 状況説明会	キャリアデザイン委員会委員 就職担当教員	保護者200名 2～4年生 400名
8月5日	22番教室	就職活動今からやるべきこと 就職活動の前に考えてほしいこと	学生支援センター 平尾 元彦氏 山口県若者就職支援セン ター 重松政徳氏	3年生 100名
9月29日	各学科	3年生への就職委員による 各講座ごとの就職ガイダンス	各講座就職委員	3年生 200名
11月2日	各学科	卒業生による就職講演会 卒業生による業界研究講演会	卒業生 川相貞之氏 卒業生	

医学部 保健学科看護学専攻

月 日	行 事 内 容	指 導 内 容
4月6日	オリエンテーション	自分の将来をどのように考えるか・自己分析 就職活動スケジュールとステップ・キャリアデザイン室の使い方 就職先、進学先の情報の集め方・就職先、進学先の選択の方法 履歴書の書き方・面接の受け方・推薦書 就職、進学に伴う証明書等の発行
4月18日	第1回ガイダンス	
4月	第1回進路調査実施 個人面談	
5月	個人面談	
6月	個人面談 教員採用試験(一次)	
7月25日	第2回ガイダンス	模擬面接・夏期休業中の病院見学についての注意
8月前半	医学部附属病院就職説明会 教員採用試験(二次) 大学院(修士)試験	
9月	個別相談	進路に関しての相談はどの教員にしても良いが受験先等決めたことは 担当教員に報告する
10月3日	第3回ガイダンス	
11月	個人相談	
12月	個人相談	
1月	個人相談	
2月	国家試験 個人相談	
3月	個人相談	

医学部 保健学科検査学専攻

月 日	行 事 内 容	指 導 内 容
4月		進路調査
5月14日 5月～6月	第1回ガイダンス	履歴書作成方法・面接指導 講師:「山口県若者就職支援センター」 個人面談 病院・企業に求人依頼書送付
6月 6月～7月	第2回ガイダンス	夏期研修について 就職施設分析、求職案内など 模擬面接
7月	第3回ガイダンス	就職情報収集方法 夏期研修の注意事項 「私の就職活動」(先輩から)
9月	第4回ガイダンス	受験における事務的作業(契約書や礼状などの指導) 受験必勝法(外部講師による)
10月～12月	第5回ガイダンス	個人面談
12月	事後評価アンケート施行(卒業生ならびに就職先施設対象)	

工学部

月 日	行 事	内 容
6月	就職講演会	就職の流れを知り、心構えを持たせる
7月	就職講演会	実話に基づいた内定への道を探る
10月	R-CAP 会社説明会ガイダンス	適職診断 会社説明会の意義を知る
11月	合同会社説明会 就職説明会	企業の実情と採用情報を得る(主に上場企業) 面接・エントリーシートの書き方指導
12月	内定報告会 OB報告会 合同会社説明会 就職説明会	4年生から内定を得るまでの準備・体験等の話 企業の求める人物像を探る 企業の実情と採用情報を得る(主に地域企業) OBによる求人情報
1～3月	就職セミナー	最終チェック

個別指導(各学科・学生支援係)は随時実施しています。会社説明会は随時実施しています。

農学部

月 日	行 事
8月5日	第1回就職支援セミナー
11月4日	第2回就職支援セミナー

TOPICS

大学教育改革の支援プログラム

文部科学省では、各大学が取り組む教育プロジェクトの中から、国公立大学を通じた競争原理に基づいて優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことなどにより、高等教育の更なる活性化を図る、「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」を行っています。

次頁から先に採択された4つの大学教育改革の支援プログラムを紹介致します。この他に、10月25日に文部科学省から「魅力ある大学院」イニシアティブに医工融合実践プログラムが採択されました。



記者発表の様子



各事業報告書

■特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

テーマ	(主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ)
取組名称	山口大学おもしろプロジェクト - 学生の創造性に期待する支援事業 -
申請単位	大学全体
部局(取組担当者)	学生支援センター 植村高久
テーマ	(主として教育方法の工夫改善に関するテーマ)
取組名称	工学系数学基礎学力の評価と保証 - グローバルスタンダードをめざして -
大学名	広島大学、山口大学

■現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

テーマ	(知的財産関連教育の推進)
取組名称	理工系学生向けの実践的知的財産教育
申請単位	常盤キャンパス
取組担当者	工学部 三木俊克

■大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)

プロジェクト名称	「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画
学部等名	教育学部、教育学研究科

■「魅力ある大学院」イニシアティブ

分野	医療系
プログラム名称	医工融合実践教育プログラム
研究科・専攻名	医学系研究科応用医工学系専攻

TOPICS

キミの“やる気”を応援します 「おもしろプロジェクト」が特色GPに選ばれる

■ 植村 高久 学生支援センター長



特色GPとは？

「山口大学おもしろプロジェクト ―学生の創造性に期待する支援事業の10年」が文部科学省の平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム」（略称「特色GP」）に選ばれました。この文科省のプロジェクトは、全国の国公私立大学が、それぞれが独自に行っている特色ある教育や教育改善の工夫の中から特に優れた事業を選定し、他大学の教育改革の模範や参考事例とするための支援事業です。

平成17年度は410件の応募があり、うち採択されたのは47件のみで、採択率11.5%という難関でした。山口大学は平成16年度の「TOEICを活用した英語教育」に続き2年連続の採択でしたが、2年連続採択されたのは5大学のみとなっており、教育上の特色ある取り組みを行っている先進大学としての“お墨付き”を頂いたものと考えております。

おもしろプロジェクト

2年生以上の山口大学の学生ならば、「おもしろプロジェクト」という言葉はどこかで見たか、聞いたことがあるでしょう。しかし、意外にその内容や実態は知られていないかも知れません*。

*おもしろプロジェクトの記録は、Webページで見ることができます。
山大的Webページから、「学生生活」→「山口大学おもしろプロジェクト」で行けます。

おもしろプロジェクトは1996年に、当時の廣中学長の提唱によって始められました。廣中学長は、学生の何をやるかわからない創造性を“爆発”させて、山口大学全体を活性化させようと「山口大学活性化策」を提起され、その具体化として「おもしろプロジェクト」を始められました。基本は学生に〈期待〉し、学生を〈信頼〉するという精神でしたが、学生自身が「発見し・はぐくみ・かたちにする」という大学の理念に結びつく重要な取り組みでもあります。

「おもしろプロジェクト」は学生の自主的・創造的な活動に対する資金支援を内容としますが、最大でおよそ60万円までという規模の大きさと対象をほとんど限定しないことが特徴です（年10数件を採択）。学生への〈期待〉と〈信頼〉が元になっている「太っ腹」で「寛大」な学生支援ですが、全国的にもユニークな取り組みです。今まで採択されてきた内容は「学術研究」や「地域活動」「国際交流」などが主ですが、「自主性・創造性」が発揮できるものであれば、どんな企画でも構いません。みなさん、アイデアを出し合い、仲間を集め、様々な企画で応募してみませんか*。

*山口大学の学生（大学院生を含む）が責任をもって実施する企画であれば、他の構成員（他大学の学生や市民等）を含むものでも応募可能です（採択実績もあります）。

おもしろプロジェクトの意義

「おもしろプロジェクト」には重要な哲学があります。「主性・創造性を〈思う存分〉発揮」することと、〈失敗してもいい〉です。〈思う存分〉は大きな夢やアイデアを思いっきり描いてみるような野心的な企画を歓迎すること。〈失敗してもいい〉とは、学生が責任を持って企画・実施したものであれば、プロジェクトそのものが失敗しても責任は問わないということです。野心的な企画

TOPICS

ほど実施が難しく頓挫しがちですが、それでも構わないのは、困難な企画に取り組んだ学生達が無駄では得られない体験をしていて、学んだことが非常に大きいからです。外から見える作品（成果）ではなく、学生の内に育つ経験に投資していると言ってもよいと思います。

おもしろプロジェクトの成果

初めて「おもしろプロジェクト」を実施した年、「学長に是非お礼を言いたい」という参加者がたくさんいました。今では、恒例化したので、そうした参加者は希ですが、参加者はほぼ例外なくこの取り組みを高く評価しています。それは「かけがえのない体験」の機会となっているからです。企画としては成功したものも、失敗したものもあ

ります。他方、参加者はほぼ例外なく、選ばれて企画を実施することの責任感、実施することの難しさやそれを乗り越える自分の能力への気づき、ものの見方や人生観・世界観が変わった等々、内面的に多くのものを得ています。「かけがえのない体験」であることは、実際にやってみないと分からない。是非、より多くの学生にチャレンジして頂きたい*。山口大学はキミのやる気を応援します。

*来年度の「おもしろプロジェクト」は、平成18年1月頃に公募を開始します。詳しくは学生支援課(083-933-5159)に問い合わせ下さい。

学内連絡先

TEL：083-933-5593

E-Mail：uemura@yamaguchi-u.ac.jp

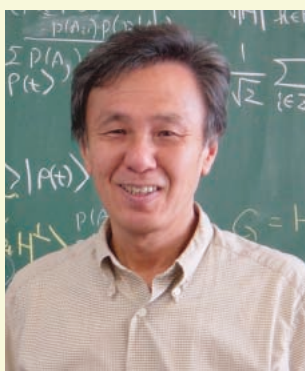


おもしろプロジェクト報告会

TOPICS

工学系学生の数学学力の評価と、 数学学力の向上のために —— 特色GP採択に当たり ——

栗山 憲 教授 工学部 工学系数学教育検討委員会委員



概要と特色

平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に、広島大学と山口大学の共同提案「工学系数学基礎学力の評価と保証—グローバルスタンダードをめざして—」が4年間の事業として採択されました。

その目的は、工学系学生に対する全国レベルでの統一試験を実施することなどにより工学系数学基礎学力を評価・保証するシステムを作り上げるものです。具体的には、

- (i) 工学系数学教育の基礎分野の選定と学習達成目標の表示
- (ii) 達成目標に基づく統一試験の実施
- (iii) 試験による数学基礎学力の客観的な評価
- (iv) 成績分析に基づく工学系数学教育に関する効果の評価および授業方法の改善

を行うことにしており、今後2年間のうちに20大学以上の参加を目指しています。

すでに過去2年間、広島大学と山口大学では統一試験を実施し学力の評価を行っておりますが、大学の枠を超えたこのような試みは画期的なことで

あり、採択にあたってはその点も評価されました。

背景と実施内容

工学系学生が卒業後に技術者として社会に貢献するためには、数学の基本を身につける（身につけさせる）ことがますます重要になっています。このために平成14年度の中四国国立大学工学系学部長会議では平成15年度からの統一試験の実施が提案されました。本工学部では教務委員会、教員等会議の議論を経て統一試験に参加することを決定し、平成15年度・16年度の統一試験の企画・実施・運営にあたりました。

本年度の事業内容は過去の経験もふまえ両大学の協議により以下のようにしております。

統一試験については、

- ・分野：微分積分学、線形代数、常微分方程式、確率・統計の基礎的な4分野
- ・マークシート方式
- ・試験時間：4分野一括で150分
- ・試験日：12月17日（土）13時30分～16時
- ・会場：各大学

としています。試験終了後はただちにWebページ上で解答例を載せる予定であり、受験生の復習教材とします。また各受験生には、各小問ごと各分野ごとの点数、総合点の試験成績を適切な手段により通知いたします。

数学教育の改善のために

本事業では「評価と保証」を内容としており、統一試験による評価をもとに学習到達目標をいか

TOPICS

に保証するのか、どのようにして数学教育の改善につなげるのかが重視されています。昨年度、山大学の学生の学力評価を行いました。その結果、難解と思われる問題の成績が良く、簡単な問題の成績が悪いなど意外なことがありました。今後の数学教育の改善の一助にもなり、また高校の数学の先生や高校生の大学入学後の勉学の目安にもなると思いますので一部をご紹介します。

昨年度の微分積分、第1問の間5は重積分の計算を問う問題でした。

問5 xy 平面の集合

$\{(x, y) : 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq x\}$ を D で表すとき、

$$\iint_D e^{2x-y} dx dy =$$

この問題はそれなりの計算を必要とし易しい問題ではありませんが、正解率は高く非常に良くできておりました。それに対し、第1問の間1は関数の極限を問う問題です。

問1 次の値を求めよ

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x - e^{-x}}{\sin x} =$$

この問題は非常に易しいにもかかわらず、それほど正解率は高くありませんでした。また、ここでは紹介しませんが2変数の関数の極限を問う問題では残念ながら正解率は非常に低い結果でした。このような評価を分析することにより、数学教育の内容の改善につなげるのも本事業の目的の一つであると考えます。

本学での取り組み

本事業の最終的な目的は、工学部の学生の数学基礎学力を向上させ保証することです。そのために、本工学部では「チャレンジ講座」の開設とそのための教材作成、学生の意欲向上のための統一試験の結果にもとづく「優秀賞」「進歩賞」の学部長表彰、過去の統一試験の問題と解答例のWebページでの掲載などの取り組みをしてきました。

また特色GP採用にあたり、本年度から工学系数学教育検討委員会を設置しその下に試験実施委員会と問題作成等ワーキンググループを組織しました。学部長によるリーダーシップの下に、数学担当教員のみならず、専門学科の先生方の献身的な活動や事務職員・技術系職員の方々の援助により本事業の成功のために活動しています。工学部教務係内には、数学統一試験事務局（担当：森崎教務補佐員、TEL：0836-85-9030、E-mail：morisaki@yamaguchi-u.ac.jp）も置いていますので、質問等があればご連絡下さい。

試験問題や概要などは工学部Webページで「工学系数学基礎学力の評価と保証」をクリックすれば見るができますのでご参照ください。

学内連絡先

TEL：0836-85-9825

E-Mail：kuriyama@yamaguchi-u.ac.jp

TOPICS

「理工系学生向けの実戦的知的財産教育」プロジェクト
—現代GP (知的財産教育) の採択・実施に当たって—

■ 三木 俊克

教授 工学部長 工学部MOT教育推進本部



知的財産に関する本学の取組

本年5月に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（通称：現代GP）に本学から申請していた「理工系学生向けの実戦的知的財産教育」プロジェクトが、本年8月に採択されました。筆者は、本プロジェクトの企画、申請書執筆、ヒアリング審査対応など、一連のアクションを現場レベルで担当してきましたが、本プロジェクトの立案に際しては多くの皆さんのご鞭撻をいただきました。ここに深く感謝いたしますとともに、今後の事業実施においても従前に増してご支援をお願い申し上げる次第です。

さて、ご存知のように、「知的財産立国」は21世紀の我国の基本政策の1つであって、本学でも知的財産の創出・権利化・保護・活用に係る諸制度や体制の整備が進められてきました。1990年代後半から本学で進められてきた「技術移転機関（TLO）の設立」、「発明等の機関帰属決定」、「知的財産本部の整備」などに伴う諸制度整備や活動展開からでは、他大学に先駆けた先進モデルが生まれ、多くの国立大学からも注目されています。本学知的財産本部や山口TLOが提供している発明者支援サービスは、本学教職員にとっては「当たり前」のものとなっていますが、多くの大学では提供されて

いない優れたものもあります。例えば、「知財インストラクタ派遣制度」などがそれに当たります。こうした本学の知的財産の「創出」、「登録・保護」、「活用」に関する取組は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」という本学の理念とも一致するもので、本学での「知的財産創造サイクル」の構築を目指したものでもあります。

ところで、“知財先進大学”である本学においては、常盤キャンパスを中心に早くから「人づくり」の重要性にも着目してきました。「事業戦略」、「知財戦略」、「研究開発戦略」を三位一体的に捉えて人材育成を行う「技術経営（MOT：Management of Technology）教育」の試行と教材開発を行うために「MOT教育推進本部」を工学部内に設置し、理工学研究科におけるMOT教育の本格実施（平成15～16年度）を経て、平成17年度には専門職大学院である大学院技術経営研究科が設置されました。また、平成18年度に実施する理系大学院の改革再編の後には、知的財産教育が一層重視されることになっています。

理工系学生向けの知的財産教育の現代的意義

我国の大学で展開されつつある「知財教育」は大きく分けると以下のような分類が出来ると筆者は考えています。

①知的財産エキスパート（知財専門家）の育成教育

知財弁護士などの知的財産専門家の養成を目的とする教育で、法科大学院などがその役割を担っています。なお弁理士の養成については、法科大学院での教育は必ずしも必要なく、理系大学院での教育に高度な知財教育を付加することで対応できます。

②知的財産マネジメント人材の育成教育

T O P I C S

事業戦略の中で知的財産戦略や研究開発戦略を位置づけて、技術経営の観点で知的財産を捉えることの出来るマネージメント人材であって、技術経営（MOT）専門職大学院や知的財産専門職大学院などで養成されています。

- ③知的財産に精通した理系高度人材の育成教育
産業界の研究開発部門の管理職へのヒアリングによると、理工系学生の専門分野における高い専門性に加え知的財産に関する視点と能力をもってイノベーションにチャレンジする人材への要求が高まっています。そうした人材の育成を体系的に行うには、専門分野での学生の発達過程に応じた教材と教育方法が必要です。

筆者らが現代GPに申請した「理工系学生向けの実戦的知的財産教育」プロジェクトは、上の分類の③に属するものであって、昔からの「特許法教育」とは一線を画するものです。本学の理工系大学院および工学部での実戦的知的財産教育は、平成9年度に工学部で開始した「特許セミナー」に端を発するのですが、大学院の正規課目としては、平成13年度から「技術経営（MOT）教育」の枠内で「知

的財産に関するMOT教材」の開発を開始し、講義も行われてきました。

本事業は、そうした実戦型能力を育成する教材開発と教育実践に関する過去の経験と蓄積を生かしながら、外部有識者の助言を得つつ理工系学部学生及び大学院生向けの知的財産教材を開発し、知財教育の実施に必要な知的財産教育データベースを強化し、開発教材の教育効果を検証するために工学部の「知的財産権論」、理工学研究科の「知的財産特論」などで実証講義を実施し、実証講義での教育効果の分析に基づく教材の改善を図り、もって理工系学生向けの知的財産教育の充実を図ることにあります。

フロントランナーとなった我国では、産業イノベーション創出、持続的発展可能な社会への転換、地球環境の保全などに取り組む人材の養成が求められています。産業社会で活躍するに違いない理工系の学生にとっては、理工系専門だけでなく知的財産に関する知識と応用力が不可欠になってきます。本プロジェクトは、学生の発達段階に応じた教材を多数開発して、理工系学生向けの実戦力を育成することを狙っています。

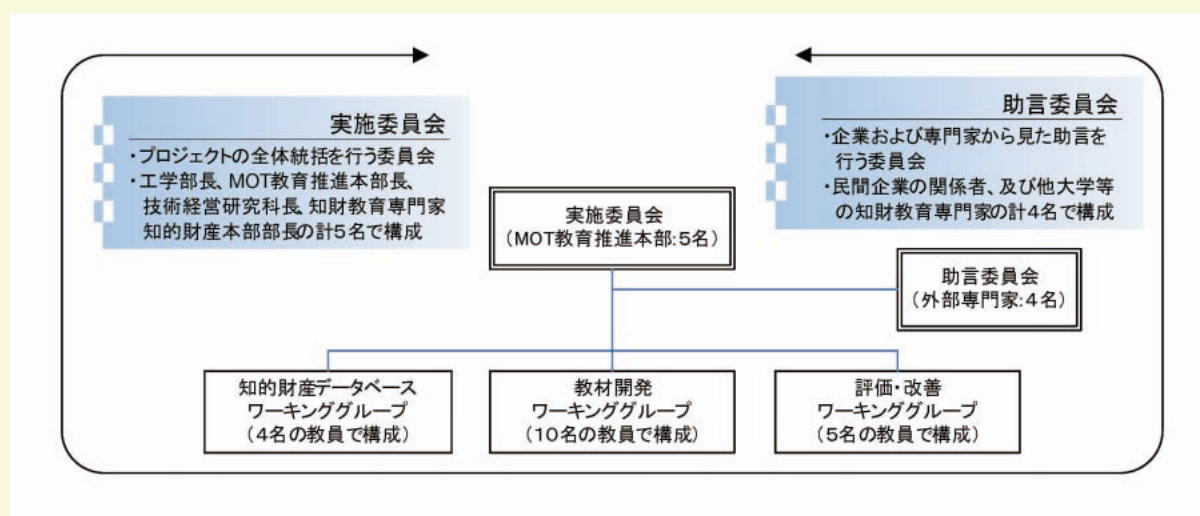


図1.「理工系学生向けの実戦的知的財産教育」事業の実施体制の概要

TOPICS

本事業の概要紹介

本事業では理工系学生向けの知的財産教育の必要性に鑑み、以下の事業を推進することとしています。

- ①理工系学生の発達段階に応じた知的財産教育教材と教育方法の開発（学部導入教育、学部専門教育および大学院教育と水準を合わせたもの）
- ②開発教材を用いた実証講義、それに基づく教材及び教育方法の評価・改善
- ③知的財産教育の展開に必要な知的財産教育データベース（本学で開発した特許情報検索システム）の機能強化
- ④工学部の正規講義である「知的財産権論」など、及び大学院理工学研究科の正規講義である「知的財産権特論」などでの理工系学生向けの講義実施による人材養成機能の強化

本事業は平成17年度から平成19年度の3年にわたって実施されるものです。図1は、本事業の実施体制を示したものです。実施委員会のもとに3つの作業グループが置かれ、様々なサブプロジェクトが実施されることになっています。また、表1には、各年度の事業予定が示されています。

本事業の円滑な遂行には、学内外からの支援が不可欠です。事業遂行状況は順次、専用ホームページに掲載する予定です。学内においては、教職員はもとより工学部を中心とする理工系の学生諸君の協力も必要となります。本プロジェクトにより本学の知財教育は我国のトップ水準になるでしょう。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

学内連絡先

TEL：0836-85-9000（学部長室）

項 目	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教材・教育方法の開発と教育実践	- 基本教材の開発（特許データマイニング）（特許データ分析）（特許マップ） - 学部高学年向けの事例研究用教材の本格開発 - 大学院学生向けの事例研究用教材開発のための調査・取材等 - 助言委員会開催 - 知的財産教育フォーラム	- 基本教材の改善と補充教材の開発 - 学部高学年向けの事例研究用教材の改善と補充教材の開発 「知的財産権論」の本格講義開始 - 大学院学生向けの事例研究用教材の本格開発 - 助言委員会開催	- 大学院学生向けの事例研究用教材の改善と補充教材の開発 - 各種教材の出版 「知的財産権論」、「知的財産特論」等の本格講義の実施による学部及び大学院における人材育成の充実
教材・教育方法の評価・改善	- 学生理解度評価指標の開発 - 学部学生を対象とする実証講義による開発教材・教育方法の教育効果の調査 - 助言委員会開催	- 大学院学生を対象とする実証講義による開発教材・教育方法の教育効果の調査 - 助言委員会開催	- 出版を予定する教材を中心とした実証講義による教育効果の確認 - 助言委員会の開催
知的財産教育データベースの充実	知財教育用のデータベースサーバ等の強化		
理工系学生向けの知的財産教育の成果普及	- 現代 GP フォーラムでのパネル展示 - 教育者研修会の開催	- 現代 GP フォーラムでのパネル展示 - 教育者研修会の開催 - 知的財産教育フォーラム	- 現代 GP フォーラムでのパネル展示 - 教育者研修会の開催 - 教材の出版 - 知的財産教育フォーラム
事業全体の運営・管理	実施委員会（～8回）	実施委員会（～10回）	実施委員会（～10回）

表1.「理工系学生向けの実戦的知的財産教育」事業の実施計画の概要

TOPICS

教員の資質を高める現代の『ちゃぶ台』

■ 岡村 吉永 助教授 教育学部技術教育講座



実践の場（学校や地域との協働体験事業）の拡充を図ります。そして、実践を行った学生に対しては「自らの体験を振り返る機会」や「個別的な教育支援」を受けられる場として、『ちゃぶ台ルーム』を設置します。従来、実践が単なる経験にとどまりがちであったことを反省し、よりきめ細かく学生の支援を行うことで実践の意義を高め、教員として一層の資質向上が図られるよう体制の整備を行うものです。

教員養成GP

社会が複雑化・多様化するなか、学校教育が抱える課題はますます深刻化し、指導にあたる教員にも、より高度な専門性と実践的指導力が求められるようになってきました。

このような状況に対応するため、文部科学省では平成17年度から「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）」として、全国の義務教育段階の教員養成を行う機関に対し「資質の高い教員を養成するための教育内容・方法の開発・充実等を行う特色ある優れた教育プロジェクト」を募集し、全国から申請のあった101件から34件が採択されました。紹介する“「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画”（以下、研修計画）も採択された1件で、その内容や実施計画、教育委員会等との協力体制などが評価されたものと考えています。

概要

まず、この研修計画では、これまで教育学部が中心となって実施してきたフレンドシップ事業や放課後学習チューター事業など、教員を目指す学生が、実際に地域や学校で子供と継続的に関わる

『ちゃぶ台』ルーム

『ちゃぶ台ルーム』を具体的にみると、ここには実践に参加した学生だけでなく、大学教員や学校教員、多くの教育に関心を持つ人々が集います。

『ちゃぶ台』を囲んで現職教員から学校現場の話を聞いたり、学生の悩みに現職教員や大学教員が答えたりするなど、相互の情報交換やアドバイスが行われます。そして、ここで紹介された教育に関わる悩みや失敗、課題の発生と解決にいたるプロセスなど、教育上の貴重な宝物は『ちゃぶ台ルーム』でデータベース化し、有効活用できるようにします。また、卒業生など遠隔地にいて直接ちゃぶ台ルームに参加できない人のためには、電子版ちゃぶ台（e-ちゃぶ）も開設し、広範な参加を可能とします。

つまり『ちゃぶ台ルーム』は、かつて日本の家庭にあった居間の風景（ちゃぶ台を囲んで家族が集り、会話し、様々な用事もこなす。そしてまた、それぞれ外に出て行く）を、山口大学が目指す教育あるいは教員養成として象徴化したものであり、また一方で、師弟の交わりを深くし、その個性を見極めることで有為な人材を輩出した郷土の教育者「吉田松陰」の松下村塾に倣おうとする試みでもあります。そして、将来的には、教育委員会や

T O P I C S

各種教育団体、学校、研修センターなどと連携しながら、山口県における教育実践情報の中核（ハブ）機能を果たすことも企画しており、教員養成だけでなく、地域における教員研修の場としても有効活用できることを目指しています。

おわりに

以上のように、本研修計画は、教員養成における実践の重要性を認識し、これを真に有効なものにするために大学がなすべきことは何か、そして地域や学校など、学外の諸機関と協働しながらできることは何かを形にしようとするものです。

究極的にこの研修計画は、教員を目指す学生の

みなさんに、教員として必須でありながら、これまで養成が難しかった定型化されにくい能力、すなわち課題を発見し解決する能力やコミュニケーション能力など、実践の中で獲得されていく能力を身に付けてもらおうとするものです。なお、この研修計画への参加は、学生の自主性に任されています。みなさんの積極的な参加を期待しています。

学内連絡先

TEL：083-933-5397

E-Mail：okasun@yamaguchi-u.ac.jp



放課後、学生が学校に出向いて学習指導している様子

TOPICS

山口市と包括的連携協力を締結

■ 本田 正春 総務部企画課 専門員



包括的連携協力締結の経緯

山口大学と山口市は、昭和24年5月31日の開学から密接な関係を持ちながら今日に至っています。昭和41年からの吉田地区への統合移転以前は、吉田地区の農学部を除く各学部が現在の亀山地区周辺に位置し、山口市の旧市街地には学生が居て、本学と山口市民・地域社会とは様々な形でふれあう学園都市であったと思われます。

本学が統合移転した結果、山口市民との関係が希薄?となったことが一つの要因として、平成5年頃から、街と大学の連携・融合の必要性が話題となり、山口市のまちづくり・学園都市づくりの推

進に「山口学園都市フォーラム」、「山口・まち・大学」、「山口まち大学会議」、「やまぐち街なか大学」などが組織されました。

これらの組織においては、街と大学がお互いに協力し新しい地域文化とにぎわいのある街を創造するために創造ゼミ、研究会、講座、イベント、講演会などといった取組みが行われ、今日まで続けられている取組みもあります。

本学は国立大学法人山口大学として1年半を迎え、その間に宇部興産株式会社、国際協力銀行、株式会社トクヤマ徳山製造所、株式会社山口銀行、宇部市及び宇部工業高等専門学校との包括的連携協力の協定を締結するなど積極的かつ躍動的な動きをしており、この動きの中において地元である山口市との包括的連携協



合志山口市長(当時・左)と
締結の握手をする加藤学長(右)



山口市との協定調印式の様子

力の協定締結の必要性が認識されていました。

この様な状況において、本年1月に加藤学長と合志市長との間で包括的連携協力についての話し合いが行われたこと、また、山口市としては、本年10月に県央部中核都市を目指して合併し、約19万人の新「山口市」が誕生したことで、山口市は、

TOPICS

これまで以上に本学の知的・人的財産に対する市行政全般への活用についての期待が高まり、市役所内部では本学との連携・協力事項の具体的な取組課題の抽出が行われました。

包括的連携協力の協定書の成案に向けて

本年6月8日に山口市総合政策部次長、企画経営課長他の方が大坂副学長を訪問し、山口大学との包括連携協力について具体的に打診があり、加藤学長に相談の結果、協定を締結する方向で検討を行うことになりました。その後6月から7月にかけて本学が当面連携を進めたい事項に関連する学内関係者が協議を重ね、7月中旬、山口市に対し本学の意向等を伝え、協定書や連携推進体制等の成案作成に向け、山口市側の窓口である企画経営課との間で事務的協議を開始することになりました。

8月下旬、事務的協議を重ねた結果、原案が形となり、本学幹事会の了解を得、9月6日の部局長会議、更に9月13日の教育研究評議会に説明・了承を得ることができました。

包括的連携協力の協定書調印と期待

その後、学長と市長との調印日程の調整に入り、9月28日午後2時からセントコア山口で協定の締結を行うこととなりました。

調印式では、協定に至った経緯の報告の後、加藤学長及び合志市長がそれぞれ協定書に署名、その後挨拶・記者会見が行われました。

この協定書調印により、本学と新「山口市」の新しい関係がスタートし、双方の絆が一層深まり様々な課題解決に向けた取組みが行われ、それに伴って、本学と山口市の役割や機能の充実、そして地域社会が更に発展することに大きな期待を多くの関係者が持つこととなりました。

学内連絡先

TEL：083-933-5599

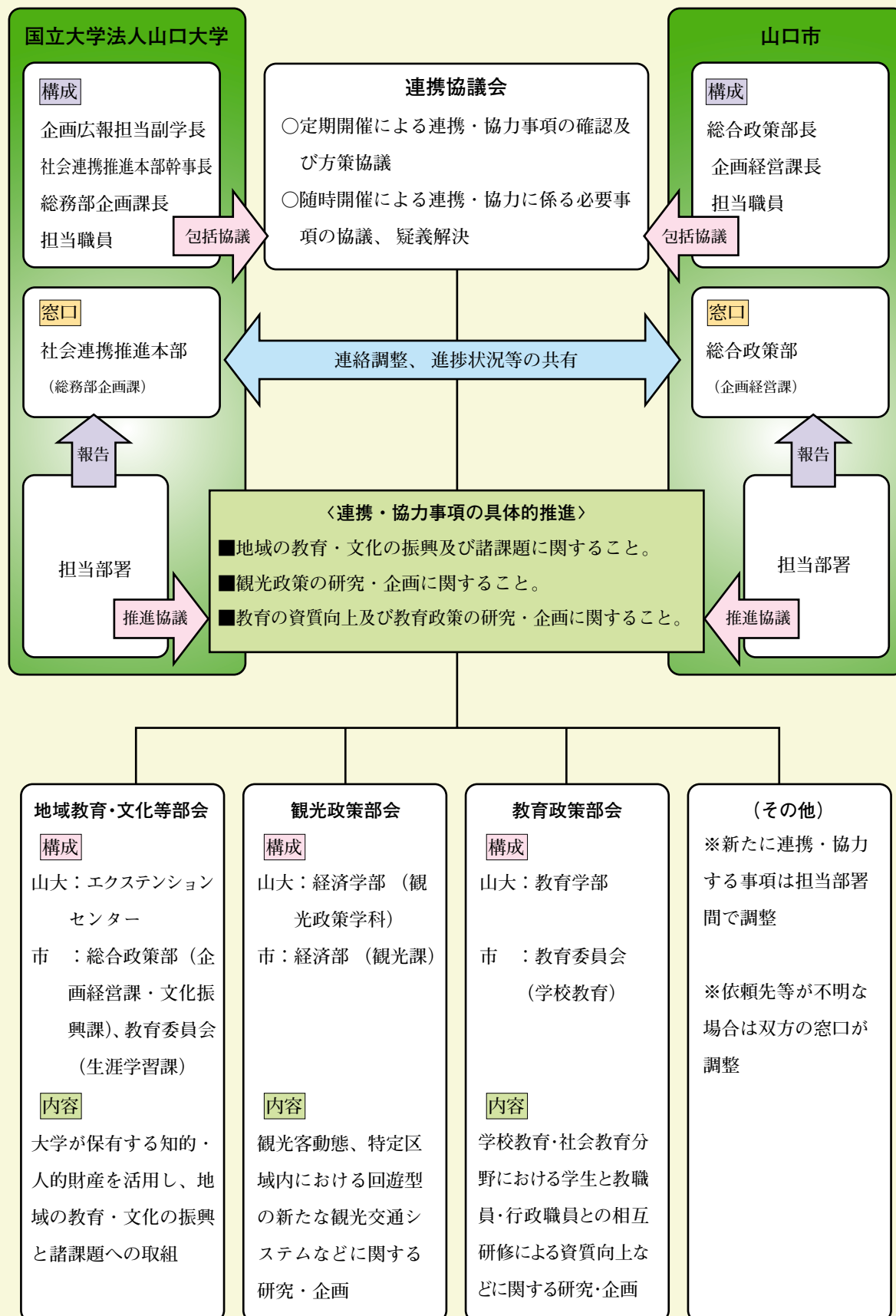
E-Mail：sh049@yamaguchi-u.ac.jp

国立大学法人山口大学と山口市との 包括的連携・協力に関する協定書		この協定の締結を証するため、本協定書を2通作成し、甲乙記名押印の上、各々1通を保有する。
国立大学法人山口大学（以下「甲」という。）と山口市（以下「乙」という。）とは、地域社会の発展に寄与するため、互いに連携・協力することに合意し、次のとおり協定を締結する。 〔目的〕 第1条 この包括的連携・協力は、甲と乙がこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的な連携・協力体制をとることにより、甲にあっては広範囲な教育・研究面の向上及び地域社会への貢献を、乙にあっては地域課題の解決及び市民サービスの向上を一層推進することを目的とする。 〔連携・協力事項〕 第2条 甲と乙は、地域の諸課題の解決や地域政策の研究など、それぞれが有する資源を活用した組織的かつ効果的な取り組みを行うこととし、次の事項について連携・協力する。 (1) 地域の教育及び文化の振興に関すること。 (2) 観光政策の研究・企画に関すること。 (3) 教育政策の研究・企画に関すること。 (4) その他他前条の目的に沿った諸課題に関すること。	〔有効期間〕 第3条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成19年3月31日までとする。ただし、有効期間満了の日までに、甲乙いずれからも改定の上入れがないときは、1年間更新するものとし、その後も同様とする。 〔協議〕 第4条 この協定書に定めるもののほか、連携・協力の細目その他の事項については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。 2 この協定書に定めのない事項又はこの協定に疑義が生じた場合は、その都度協議して定めるものとする。	平成17年9月28日 甲 国立大学法人山口大学 学 長 加藤 弘 乙 山口市 山口市長 合志 栄一

国立大学法人山口大学と山口市との包括的連携・協力に関する協定書

TOPICS

包括的連携・協力の連絡推進体制



TOPICS

エクステンションセンターと防府市教育委員会が 連携協定書を締結

■ 長畑 実 エクステンションセンター教授

連携協定書の調印

去る10月4日、防府市役所において、「山口大学エクステンションセンターと防府市教育委員会との連携協働に関する協定書」の調印式が行われ、松浦正人防府市長の立ち会いのもと、小宮克弘エクステンションセンター長と岡田利雄教育長が協定書に署名し、協定を締結しました。今回の協定は、防府市の地域発展をめざして生涯学習のまちづくり、教育、文化等の分野で、両者が連携協働することを確認したもので、エクステンションセンターが自治体教育委員会と連携協定を結ぶのは初めてのことです。

調印式と同時に、長畑実エクステンションセンター専任教授への「防府市生涯学習アドバイザー」委嘱式も行われ、地域生涯学習に関する調査研究、生涯学習とまちづくりの推進、職員研修などに協働して取り組む決意が表明されました。



防府市生涯学習アドバイザーの委嘱
(左から、岡田教育長、長畑センター専任教授)

連携協定の背景と目的

エクステンションセンターは、平成15年4月の開設以降、大学の地域貢献に係る総合窓口として公開講座、出前講義、高大連携等の事業に取り組むとともに、4市生涯学習課（山口市、宇部市、防府市、周南市）との定期的な意見交換を通じて地域生涯学習分野で個別の連携協力を進めており、特に防府市では17年度から本学「公開講座」を2講座共催開講しています。

こうした中、防府市においては平成17年に「生涯学習都市宣言」5周年という節目の年を迎え、今後さらに生涯学習を通じた市民一人一人の主体的な活動が地域に根ざし、生涯学習のまちづくりの実現に向け積極的に取り組んでいくためには、高等教育機関との連携が不可欠であると考えられ、総合的継続的な連携体制の確立に向けエクステンションセンターと協議を続けてきたところです。今回の協定書調印はこうした両者の高い志を持った取り組み、協議を背景としたもので、協定書に「連携協働」と記載されているのは、両者が一体となって新しい生涯学習のまちづくりに取り組む決意の表明にほかなりません。



協定書調印の披露
(左から、岡田教育長、松浦市長、小宮センター長)

T O P I C S

今後の連携活動の方向

今回の協定締結に伴い、締結後の業務をより円滑に進める役務を担うことを目的として「防府市生涯学習アドバイザー」が委嘱されました。今後、アドバイザーと生涯学習課職員との担当者連絡会議を月1回程度開催し、防府市生涯学習推進計画「学ぼうやプラン」をより効果的に実践するための調査・研究、次期推進計画の策定に関する調査・研究、公民館職員を含めた生涯学習担当職員の研修、地域における生涯学習によるまちづくり推進のための助言など協定書に基づく事業計画、事業実施、評価・報告等を実施していく予定です。

また、防府市独自の総合的体系的生涯学習構想である『ロング・フィールド・ミッション』の達

成に向けて、全小中学校の生涯学習担当教諭（県内では初めて各校に1名配置）との連携事業、市内各地区の推進協議会へのアドバイス、全市的なまちづくりフェスティバルの計画立案、多面的な人材育成プログラムの策定、事業の核となる「生涯学習センター」の開設など、防府市の持続的発展と活性化を実現するための取り組みを進め、エクステンションセンターと教育委員会との協働による新しい地域生涯学習モデルを構築していきたいと考えています。

学内連絡先

TEL：083-933-5082

E-Mail：nagahata@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学エクステンションセンターと防府市教育委員会 との連携協働に関する協定書

防府市教育委員会は、「生涯学習のまちづくりの目標」（平成9年防府市生涯学習推進協議会策定）を実現していくため、平成12年3月に防府市生涯学習推進計画「学ぼうやプラン」を策定し、生涯学習を通じた市民一人一人の主体的な活動を推進している。

今後さらに本市の生涯学習を地域に根ざしたものとするため、高等教育機関との連携により、一人一人がきらめく人づくりや生涯学習推進の体制づくりなどに積極的に取り組み、生涯学習のまちづくりの実現を図る。

山口大学エクステンションセンターは、「山口大学が持つ人的、知的資源の有効な活用により、地域社会との多様な連携を推進し、地域の教育・文化の振興を支援するとともに、社会貢献を通して地域に開かれた大学をめざす」ことを理念として活動しており、本理念に基づき防府市教育委員会と連携した地域貢献事業を積極的に推進する。

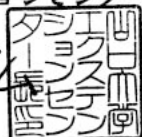
山口大学エクステンションセンターと防府市教育委員会は、上記の理念と目的に基づき、防府市の地域発展をめざして生涯学習のまちづくり、教育、文化等の分野で、両者が連携協働することを確認し、ここに協定する。

なお、本協定の有効期間は、締結の日から3年とするが、両者の合意により更新することができるものとする。

平成17年10月4日

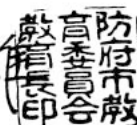
山口大学エクステンションセンター長

小宮 克弘



防府市教育委員会教育長

岡田 利雄



TOPICS

秋吉台で新洞穴発見！ —100万年のタイムカプセル—

■ 田中 和広 教授 理学部 化学・地球科学科 地球科学講座

平成16年3月に、秋吉台中央部の桐ヶ台において、ハイキング中の観光客により新しい洞穴が発見されました。当初は小規模な陥没であろうと考えられていましたが、その後の予備的調査の結果、新洞は竪穴で、深さは100m以上であり、秋吉台でも深さにおいて有数の規模を有する洞穴であることが明らかとなりました。これまで、このような洞穴が誰の眼にも触れずに存在していたことは奇跡に近く、ツタンカーメンの墳墓のごとく獣骨化石が散在しており、内部がまったく乱されていない状況が確認されました。今回発見された洞穴の洞口が標高400m付近であることやカルスト台地の中央部にあることから、本洞穴の形成発達の歴史は約100万年以上にさかのぼり、堆積物に含まれる獣骨化石は多種多様な時代のものが含まれる可能性があり、この新洞はまさに過去のタイムカプセルと呼ぶにふさわしい学術的意義を持つものと考えられます。

山口大学理学部では、各研究機関の様々な分野の研究者からなる学術調査団を結成し、8月8日から11日にかけて第1回目の現地調査を実施しました。

その結果、「桐ヶ台の穴」は直径60mのドリーネの北側斜面に開口した直径約2mの小さい入り口を持つ、深度約100mの竪穴であり、最深部までの詳細な調査はなされておきませんが、途中に3つのテラスが確認され、ザイル、ワイヤー梯子、昇降機などを用いて洞穴の探検、調査がなされました。100mといえば約30階建てのビルの高さに相当します。洞穴の探検では山口大学洞穴研究会の現役、OBのメンバーが活躍しました。

調査では、ウサギ、アナグマ、イタチ、タヌキ、イヌに混じり、現在秋吉台には生息しない大型のシカの角化石、シントウトガリネズミや絶滅種であるオオカミ（現在鑑定中）やモグラジネズミなどが発掘されています。現在も発掘した試料の解析が続いており、過去の自然環境や大陸と日本との間の生物の移動などに関する貴重なデータが得られるものと期待されます。

学内連絡先

TEL：083-933-5740

E-Mail：ka-tanak@yamaguchi-u.ac.jp



調査団メンバー（前列中央が筆者）



第2テラスの最下部

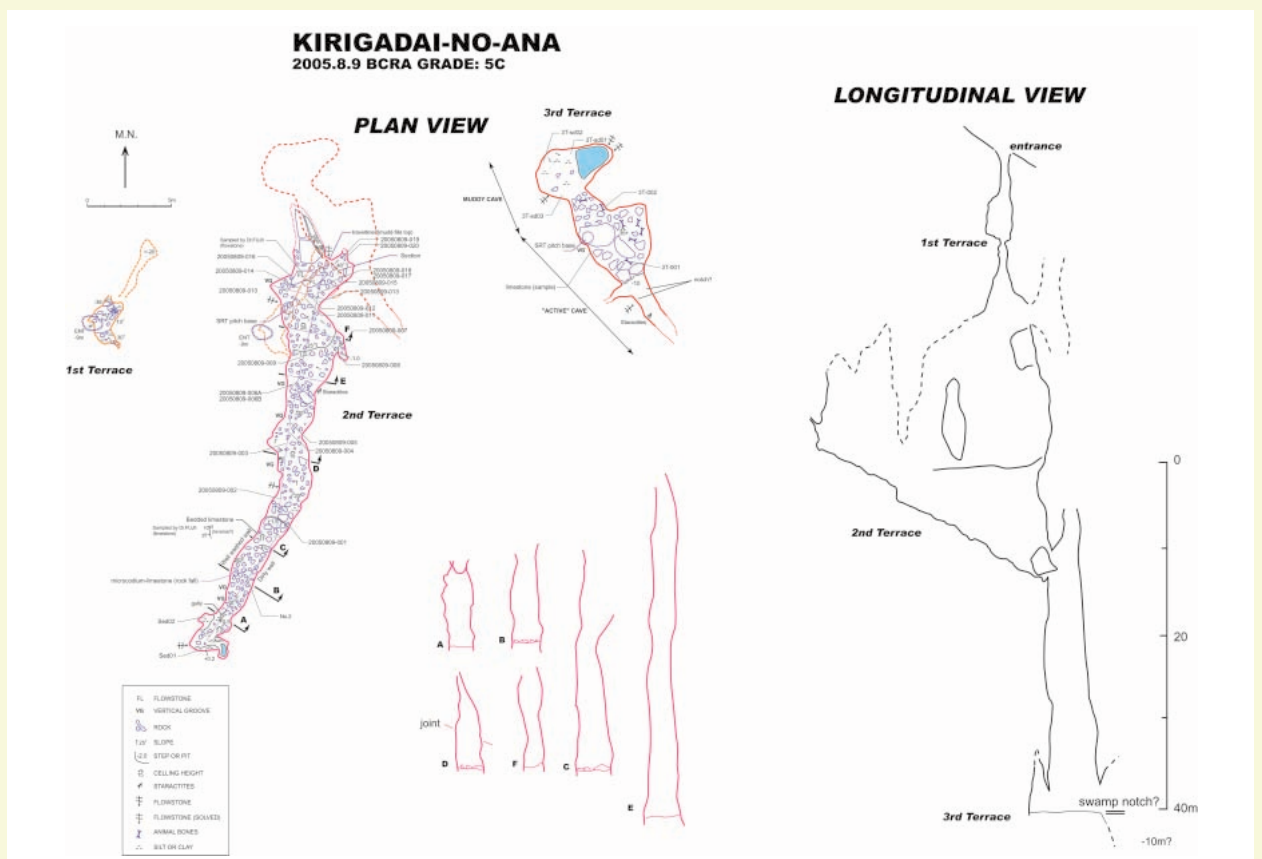
TOPICS



洞底の堆積物に埋もれた鹿の角化石



竪穴部を第2テラスから覗く



「桐ヶ台の穴」測量図

T O P I C S

第3回日韓学生交流シンポジウム

■ 横田 伸子 教授 経済学部 国際経済学科



日韓学生交流シンポジウム

日韓学生交流シンポジウムは、日本側からは、山口大学経済学部の学生を中心に30人の学生と、瀧口経済学部長を初めとする5人の経済学部教員が参加し、オープンしたてで木の香も新しい、萩市博物館の講座室で行われました。午前中には、観光政策学科設置を記念して、経済学部観光政策学科教授の河村誠治氏が、「観光資源開発の方向性」と題して、講演を行いました。

萩から日韓交流の過去・現在・未来を考える

去る8月24日、「萩から日韓交流の過去・現在・未来を考える」と題して、山口大学経済学部と仁荷大学校経商大学国際通商学部の学生による、日韓学生交流シンポジウムが開催されました。この日韓学生交流シンポジウムは、2003年より毎年1回、山口と仁荷大学校のある仁川で交互に催され、今年で3回目を数えます。2005年は、山口大学経済学部が100周年を迎える年であるとともに、観光政策学科が新たに設置され、さらには仁荷大学校経商大学と山口大学経済学部が学部間交流協定を締結してから10年目という節目にもあたります。この記念すべき年に、山口大学経済学部は、仁荷大学校経商大学から20人の学生と、金鍾吉経商大学長を初めとする4人の先生方をお迎えして、明治維新発祥の地、萩で、日韓学生の相互理解を深め、日韓交流の新しい地平を切り開こうという、きわめて意欲的で冒険的な試みをいたしました。萩の地を選んだのは、仁荷大学校より、「日本の近代化をその発祥の地で体感し、考えたい」という、たっの希望があったからです。なお、このシンポジウムは、日韓友情年2005の協賛行事として行われました。



司会をつとめる仁荷大学校学生

マスコミ各社が取材に詰めかける中、いささか緊張気味に、日韓学生による午後の部、日韓学生ワークショップが始まりました。テーマは、萩にちなんだ「萩焼と朝鮮通信使を通じた近世善隣外交の展開」と、「日韓地域交流の新しい模索」の二つです。それぞれのテーマについて、山口大学と仁荷大学校の学生が報告し、討論をするという形を取りましたが、報告はもちろん、司会からパワーポイント等の機械の操作まですべて学生が主体的に行い、活発な議論が展開されました。とくに、「萩焼と朝鮮通信使」では、国書の偽造などに象徴されるように、政治外交レベルでは真の善隣外交とは到底言い難いものでしたが、民衆レベルで両国の文化交流は深く浸透し、今でも日本各地の人々の生活の中にその痕跡が根強く残っている点が指

TOPICS

摘されました。これによって、国家間の関係を超えて、市民レベルでの交流がいかに重要で、大きな意味を持つかが、日韓双方の学生の間で共通の認識となりました。「真の交流とは、それを通して相手に対する認識を深め、お互いが変わり得ることだと思います」という、仁荷大学校の学生の発言は、会場の強い共感を呼びました。

また、「日韓地域交流の新しい模索」では、具体的に関や萩、仁川を基点にした日韓地域交流案が提示されました。報告を作成するにあたって、学生達は、地域の商店街や商工会議所、市役所等に何回も足を運び、資料的な裏付けはもちろん、街の声も反映させた、現実味と説得力のある地域交流案を示しました。何よりも、地域交流を通じて、自分たちが住む地域経済や地域文化を活性化させようという、若者らしい前向きでエネルギッシュな発想に溢れていました。



熱心な報告と討論

懇親会

日韓学生交流シンポジウム終了後、場所を「萩本陣」に移して、懇親会が行われました。懇親会の間、学生同士で、通訳なしでも片言の韓国語と日本語、それに英語でコミュニケーションを取ろうとする光景があちこちで見られ、言葉は通じなくとも気持ちを通い合わせることは意外に容易だったようです。懇親会後も、夜を徹して「交流」が続けられ、仁川での再会の計画が学生同士でたてられました。翌朝、名残を惜しむあまり、多くの山口大学の学生が山口には戻らず、見送りのため下関行きのバスに乗り込んだのが印象的でした。

大学間学術交流協定を結んだ大学同士で、こうした日韓学生交流シンポジウムを毎年行うケースはほとんどありません。私達は、これを将来も続けて行うことで、山口大学と仁荷大学校両大学の、ひいては日韓の若者同士の相互理解と友好がさらに深まることを願ってやみません。なお、このシンポジウムの模様は、今年度中に報告書の形で発行する運びとなっています。

学内連絡先

TEL：083-933-5559

E-Mail：ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp



한·일 우정의 해 2005

進もう未来へ 一緒に世界へ
나가자 미래로, 다같이 세계로



日韓友情年 2005

進もう未来へ 一緒に世界へ
나가자 미래로, 다같이 세계로

T O P I C S

男性の育児休業取得者とのフリートーキング

■ 国立大学法人山口大学イコール・パートナーシップ委員会

平成17年4月、「次世代育成支援対策推進法」が施行されました。また、これに先立ち平成16年12月には、国の少子化対策計画である「子ども・子育て応援プラン」が決定されました。これらの法律等は、少子化問題への取組みとして制定されたもので、仕事と家庭・子育ての両立、男性の育児休業取得の促進等、10年後の目指すべき社会の姿を提示しています。

これを受け、本学でも「国立大学法人山口大学一般事業主行動計画」を策定し、その中で、目標の一つとして、「職場全体の意識改革を進め、育児休業を取得しやすい職場の雰囲気を醸成し、特に計画期間内に男性職員の育児休業取得者を1人以上にする。」を掲げています。

そのような中、法人化後はじめての男性の育児休業取得者が誕生しました。本学でのこれまでの育児休業の実績は、女性の取得率はかなり高いものの男性については法人化前に教員1名が半年間取得した事例のみでした。

イコール・パートナーシップ委員会では、ハラスメントの防止及び男女共同参画社会の実現を目指した活動を行っています。男女共同参画を考え

るとき仕事と子育ての両立は避けて通れない問題であることから、このたびの男性の育児休業取得の実現を好機と捉え、平成17年度の主要活動として、育児休業の問題、とりわけ男性の育児休業に着眼した取組みを行うこととしました。具体的には、育児休業取得者本人（以下、「本人」という。）を囲み、フリートーキング形式で体験談をお聴きし男性の育児休業をめぐる諸課題を考えるものです。そして、その結果を学内に広報することとしました。

また、この機会に、「次世代育成支援対策推進法」や育児休業制度についても改めて広報することになりました。

幸いにも、こうした企画に本人や職場の方々の理解が得られ、また参加者の募集にご応募いただいたおかげでフリートーキングが実現しました。ご協力いただきました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

まず前半でフリートーキングの内容について、後半で「次世代育成支援対策推進法」及び育児休業制度についての解説を記載します。

男性の育児休業取得者とのフリートーキング

1. 企画内容

日 時：平成17年9月8日（木）13時30分～15時

場 所：事務局第2会議室（2号館4階）

出席者：①本人

②本人の職場の関係者 5名

③一般参加者（学内公募に応じた希望者）4名

④イコール・パートナーシップ委員会委員4名



休業中の心境を語る本人（山根氏）

T O P I C S

2. 基本情報

(1) 本人の職場に関する情報

職場・職名：総務部人事課・給与決定総括係長

職場の人員：総務部人事課 25名、そのうち給与決定総括係 3名

(2) 本人の家庭環境に関する情報

家族構成：①妻（勤務あり。土日出勤あり。）

②子1名（育児休業対象児（以下、「対象児」という。）で休業開始時1歳4ヶ月）

居住地区：山口市大内

(3) 対象児の育児の状況

産休明けから平成17年3月（1歳3ヶ月）まで妻が育児休業を取得した。それを引き継ぐ形で平成17年4月から7月までの4ヶ月間、本人が育児休業を取得し育児にあたった。育児休業終了後は、保育園に預けて本人・妻とも就業中である。

3. フリートーキングの概要

フリートーキングは、本人への質問が大部分を占めましたが、その他、育児休業期間の職務をカバーした職場の方々への質問、さらには一般参加者の意見交換など、活発な発言が交わされました。

以下、主な質疑事項について報告します。

（Q：質問 Y：本人 C：職場の関係者 P：参加者）

(1) 本人への質問

① 育児休業取得に至るまで

Q. 育児休業を取ろうと決断するまでの経緯をお聞きしたいと思います。

Y. 決断した理由の1つは、育児休業への関心が以前からあり子供ができてチャンスだと思ったことです。2つ目は、自分の性格に関わるのですが、人がやらないことをやりたいということにあると思います。3つ目は、人事課にいましたので、「次世代育成支援対策推進法」が施行予定で大学でも数値目標を掲げているということを知っており、自分が取れば目標達成になると思ったことです。ただし、大学のために一肌脱ごうというような気持ちはありませんでした。4つ目は、妻に土日の勤務があり育児休業を取らなくても土日の育児をしなくてはいけない状況でしたので、練習が必要だったことです。

Q. 期間が4ヶ月ということですが、もう少し長く取りたいとは思いませんでしたか。

Y. 育児休業の期間は、当初は、短くても半年くらいは取りたいがあまり長くなると復帰後が不安だというようなことを思っていました。その一方で、もっと長い方がかえって職場に迷惑がかからないのではないかともし思いました。中途半端な期間だと、後任補充するにしても難しいと思います。育児休業の期間については、人事課長や課長補佐に相談しました。最終的には、休業中の職務を同僚が兼務することになりましたので、それであれば、なるべく迷惑がかからないようにということで4ヶ月と決めました。

Q. 育児休業の取得を考えると、休業中の収入減のことは考慮されましたか。

Y. もちろん考えました。休業中は経済的に苦しくなると考えました。

Q. 育児休業を取得する際に手続面でわかりにくいことはありましたか。

Y. いろいろな手続をするにあたって、ある係は直接説明に来てくれる、別の係はこちらから行くまでは教えてくれない、ということがありました。すべての手続を一箇所で済ませることができればいいと感じました。女性の場合は、産前から休んでおり大学にいないままに手続をしなければならなかったので、余計そのように感じるのではないのでしょうか。

TOPICS

- Q. 育児経験者の方、いかがでしょうか。
- P. 今回の育児休業は、二度目だったのでスムーズに手続きができましたが、一度目のときは経験者に教えてもらったりしました。手続一覧のようなものがあればいいと思います。
- P (人事課). 育児休業の手引きのようなものは今のところありません。ホームページには「諸手続の手引き」にそれぞれの手続きの説明はありますが、手続き一覧のチェックリストのようなものがあればよいのではないかと思います。

② 育児休業中の行動スタイル、心情等

- Q. 困ったことがありましたか。
- Y. 一番困ったのは、子供を連れて外出した際、オムツを替える場所が男性用のトイレにはないことです。それから、週に一度は定期的に病院へ連れて行っていましたが、熱が出て予定外の通院もありましたので、結局4ヶ月の間に計28日通院して大変でした。また、子供が機嫌悪く泣いたとき、初めの頃は泣く理由がわかりませんでした。何ヶ月かして想像がつくようになりました。
- Q. 最近の若いお母さんが育児に疲れて子供を虐待するということがありますが、そのような気持ちになったことはありませんでしたか。
- Y. 以前はスーパー等で母親が大声で叱る姿が不思議だったのですが、四六時中一緒にいると大きな声を出したくなります。毎日朝から晩までいるとその気持ちはわかります。ただ実際に行動に出すことは別だと思います。
- Q. 女性の場合はずっと家庭にいと社会から隔離された感覚になりますが、男性はどうなのでしょう。
- Y. 女性なら公園や近所で女性同士で話せますが、男性はなかなかできません。女性同士ならお互いの家に遊びにもいけますが男性なのでできません。会話をする機会が少なく、女性同士のようなコミュニケーションがとれないし、サークルもありましたが恥ずかしくて行けませんでした。友人(男性)が遊びに来てくれたのが唯一の話す機会だったぐらいで、社会との疎外感がありました。
- Q. そのことは予め想像しておられましたか。
- Y. 予想はしていましたが、実際に経験してみると想像以上に淋しいです。休業中の職場の飲み会への誘いがとてもうれしかったです。
- Q. 自分の食事はどのようにしておられましたか。
- Y. 昼はコンビニで買ったり、自分で作ったり、時々妻が帰ってきたりしていたのでなんとかなりました。夕食は妻が帰ってきて作ってくれていました。
- C (同僚). 学内アンケートに寄せられた過去の取得者の意見の中に「情報提供が必要」とありましたので、メール等で連絡してみましたが、どうだったでしょうか。
- Y. 育児休業を取るにあたり、メール通信のためパソコンを購入したことが非常に役立ちました。メール等による情報提供はありがたかったです。
- Q. 復帰することを考えると情報提供はいいことなのでしょうが、休業中も終始職場のことが頭の中にある状態は、果たしていいことなのでしょう。
- Y. 最初は100%育児休業に専念しようと思っていましたが、100%集中して育児をすることはかえってプレッシャーになると思いました。初めのうちは仕事のことは考えたくありませんでしたが、育児休業期間の終わりころには、育児をしながら仕事のことを考えるのもいいと思いました。仕事のことに触れることができたのは、復帰する上ではとても良かったです。
- Q. 女性の場合はどうでしょうか。
- P. 私の場合は仕事から遠のいていました。そして復帰間際に情報を収集しました。出産後は子育てに集中し、仕事のことは頭から離れていました。産後すぐに育児休業に入るのと、今回のように子供の年齢が1歳4ヶ月の時点からの育児休業はまた違うと思います。

TOPICS

③ 育児休業終了後

Q. 育児休業の前後で職場の感じは違いましたか。

Y. 4月からの休業でしたので、復帰したときは異動でメンバーが変わっていました。半分浦島太郎状態でしたが、比較的すんなりと復帰できたと思います。同じ部署に復帰したのでさほど違和感はありませんでした。

Q. 父親が深く育児に関わったことで、子供がよくなっているのではありませんか。

Y. 今復帰後1ヶ月ですが、まだなついています。育児休業を4ヶ月取った直後では、妻よりなついていたように思います。

Q. 仕事や職場の雰囲気に対する勘が戻るのにどの程度の時間を要しましたか。

Y. 復帰後1ヶ月ちょっとでやっと慣れました。最初の1週間は、やることはたくさんあるのですが手がかからない、といった状態でした。ただ、職場から定期的にメールで情報提供をしてもらっていたので、ある程度、大学の様子がわかっていました。それがなかったらもっと困っていたと思います。また、休業中に「YUインフォメーション」を送ってもらって、とても助かりました。

Q. 育児休業を取得して良かった点は何ですか。

Y. 一人で育児ができるようになったことです。風呂や食事の世話等ひととおりできるようになりました。自分も妻も助かっていると思います。妻が土日勤務の時や子供が病気の時などスムーズに対応できるようになりました。今、私は、朝子供に食事を作り食べさせ歯磨きを担当しています。夜は、妻が食事を作っていますが、食べさせるのは自分です。洗濯も夜やっていますので、妻は助かっていると思います。ただ自分はくたくた…。大変貴重な体験となりましたが、腰や膝が痛みます。わずか4ヶ月でも育児というものがどんなものなのか、そしてとても大変だということがよくわかりました。

Q. 支障を来した点があれば、どんなことでしょうか。

Y. 一番気になったのは、家庭のことではなく、同僚に兼務してもらっていた点で、代替なら少しは気分的に違っていたかもしれません。もし逆に、自分が兼務してくれた同僚の立場なら兼務はしたくありません。(笑)

Q. 育児休業を取ることで昇進に響くという心配はありませんでしたか。

Y. 育児休業を取得する際、親族に「昇進に響くのではないか」と言われました。育児休業を取ったことで自分の昇進にどのような影響が出るのか、体験できるのが楽しみです。(笑)

Q. これまでの話題に出なかったことで、特に伝えておきたいことはありませんか。

Y. 育児休業は非常に貴重な体験でした。職場の環境さえ整っていれば、ぜひ取るべきだと思います。ただ、体力的な消耗を考えると、なるべく若いうちがいいと思います。(笑)

(2) 職場の同僚・上司等への質問

Q. 育児休業者へのフォローはどのような方法がいいと思われますか。

C (同僚). 定期刊行物などを送ったりメールで情報をやりとりしたりするのはよいと思います。電話をかけると、お昼寝タイムではないか手が離せないときではないかなど相手の状況が気になりますが、メールなら本人の都合のよい時に見ることができますので。また、情報提供のためだけでなく代替者が職務上の細かい点を教えてもらうためにもメールが有効でした。

Q. 職場の上司、同僚又は部下の立場から、同じ職場の人が育児休業を取ったことで支障を来した点がありますか。

C (上司). 休業期間中の職務は同じ課の同僚が兼務するということがだったので、むしろ職務上の支障は来たさなないと思いました。実際問題としては、育児休業を取るタイミングも大きな要素だろうと思います。仮に繁忙期の12月から3月であつたら、取りづらかつたのではないかと思います。

育児休業の取得には3つのポイントがあると考えています。1つは、環境（マンパワー）が整っていること、2つ目は、上司、同僚、部下の理解・協力があること、3つ目は、仕事に対する本人の不安に 대응することです。

TOPICS

この3つをきちんと整理する必要があります。手始めとしては、育児中の職員には超過勤務をさせない等の努力を始めるなど、上司の理解、啓発活動が必要であると思います。

- C（同僚）．育児休業者の職務を兼務することになると聞いて、正直なところ驚きました。また、兼務して難しさを実感しました。休業する本人に休業中の引継書（スケジュール）を作ってもらい、職場のみんなにも助けてもらいましたが、二つの係をカバーするのは大変でした。
- C（部下）．本人が育児休業に入られると同時にこの係に異動してきましたので、休業前後の比較はできません。男性が育児休業を取られるので、素直に「すごいな」と思いました。自分がその係に異動するという不安がありましたが、一方で、同じ課の他の係長が兼務されるので安心感もありました。係長が兼務ということで、特に自分の仕事量が多かったわけではありません。兼務のためか、係長が自分たちに遠慮されているのを感じて申し訳なく思いました。本人とは育児休業中もメールで連絡が取れました。休業中なのに係のことをいろいろ気にかけてくれていてうれしかったです。

（3）参加者の意見交換

- Q．女性の育児休業を取得された方にお尋ねしたいのですが、復帰に努力は必要でしたか。
- P．特に努力はしていませんが、浦島太郎状態で馴染むのに時間はかかりました。復帰前には不安があり職場の情報を大学のWebページを見たりして収集しました。
- Q．これから育児休業を取得しようとする人たちの意見はどうですか。
- P．今日は男性の育児休業が主なテーマになっていますが、育児休業を取得させるためのさまざまな配慮は女性の場合でも同様に必要だと思います。今こうしたことが話題になるのは、これまで女性の育児休業取得への配慮が必ずしも充分でなかったことを物語っているように感じます。（男性）
- P．自然に取れるような環境になればいいと思います。（男性）
- P．「取ろうと思いますか」という質問が出るのが現実なのだなと思いました。必要であれば取ることができる環境に変えていき、職場の意識を改革していく必要性を感じました。（女性）
- P．私は教員なので、育児休業の取得にあたって仕事のことを考えました。教員と事務職員では、事情が違うと思います。男女を問わず働きやすい環境をめざしてほしいと思います。
- P．一般事業主行動計画の策定に携わった者として、「どうすれば男性の育児休業が増えると思うか」というアンケートの設問で、「昇進に対する不安」という答えに男性よりも女性が多くチェックしていたことが不思議でした。その理由はともかく、昇進に100%影響しない環境を作ることも大切だと思います。
- C（人事課）．制度上、昇任に影響が出ることはありませんが、昇給には影響があるかもしれません。育児休業を取得できる環境を整えること、物理的なハードルを低くしてあげることが人事課の使命と考えています。

－イコール・パートナーシップ委員会のコメント－

フリートーキングの記録をご覧になって皆さんはどのようにお感じになられたでしょうか。ここで、フリートーキングで交わされた質疑等から明らかとなったポイントをあげてみます。

- ・ このたびの男性の育児休業取得者は、総務部人事課の職員であり、「次世代育成支援対策推進法」の施行や育児休業制度に対する十分な理解のもとに判断がなされた。
- ・ 以前から本人が育児休業に興味を持っていたことがそもそものスタートになっており、家庭環境等を総合的に考慮して育児休業取得を決断した。
- ・ 育児休業の決断をする場合に、どの程度の期間にするか、休業中の仕事の心配、収入の減額等を考慮し判断しなければならない点は女性の場合と変わらない。

TOPICS

- ・ 育児休業の手続き面で分かりにくいことがある点については、産休から直接育児休業に入る場合の女性の方がより深刻であり、改善が求められる。
- ・ 男性の育児休業を特別視する雰囲気が残念ながら現在もある。意識を改革し環境も整備しなければならない。
- ・ おむつ替えの設備が男性トイレにないなど、社会はまだ男性の育児に対応できていない。同じ立場同士での交流もままならず女性の場合よりも社会との疎外感を感じる度合いが強い。
- ・ 休業中は原則として育児に専念すべきであろうが、現実問題としては職務復帰のためにも休業中の職場からの情報提供はある程度必要と思われる。

以上のとおり、男性の育児休業については、女性のそれに比べまだまだ一般化しているとは言えません。次世代育成支援対策推進法及び育児休業制度の周知と我々の意識改革、それに育児休業を取りやすくする職場環境の整備が急がれるところです

(出席者は次表のとおり。)

出席区分	所 属 ・ 職 名		氏 名	備 考
本 人	総務部人事課	給与決定総括係長	山根 信二	
本人の職場	総務部人事課	課長	宮地 弘	
	総務部人事課	専門員	米山 哲朗	
	総務部人事課	人事総務係長	中尾 淑乃	
	総務部人事課	サービス管理係長	出雲 武	
	総務部人事課	給与決定総括係主任	橋本 博己	
	総務部人事課	給与決定総括係主任	橋本 博己	
一 般 参 加	理学部	教授	加藤 崇雄	
	総務部総務課	広報・調査係主任	松廣眞砂子	
	財務部契約課	事務補佐員	秋山千賀子	
	人文・理学部	学務第二係主任	三原 敏秀	
イコールパートナーシップ 委員会委員	教育学部	教授	五島 淑子	司会(男女共同参画WG長)
	監査室	監査係長	杉山美由紀	記録
	総務部総務課	課長補佐	小野 静生	企画
	学術情報部学術情報課	システム管理係長	池田浩弥子	記録



活発に質疑を交わすフリートーキング参加者

TOPICS

本学における「次世代育成支援対策推進法」への対応及び育児休業制度の解説

1. 「次世代育成支援対策推進法」について

(1) 「次世代育成支援対策推進法」の概要

次世代育成支援対策推進法は、我が国における急速な少子化の進行等を踏まえ、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境の整備を図るため、基本理念を定めるとともに、国による行動計画策定指針並びに地方公共団体及び事業主による行動計画の策定等を責務として定め、次世代育成支援対策を迅速かつ重点的に推進することを目的として制定され、平成17年4月から施行されました。

また、国の基本施策としては、平成16年12月に「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」（子ども・子育て応援プラン）が決定され、概ね10年後を展望した目指すべき社会の姿と、それに向けて、平成21年度までの5年間に講じる施策内容と目標が提示され、少子化の流れを変えるための施策を重点的に推進することとされています。

(2) 本学における「次世代育成支援対策推進法」への対応状況

本学においては、次世代育成支援対策推進法や子ども・子育て応援プランを踏まえて、次世代育成支援対策のための「国立大学法人山口大学一般事業主行動計画」が定められました。計画の策定に当たっては、教職員へのアンケート結果やパブリック・コメントに寄せられた意見をもとに人事制度検討委員会（服務制度WG）において検討が行われました。

この行動計画には、仕事と家庭の両立を支援するための雇用環境の整備に関する事項、働き方の見直しに資する多様な労働条件の整備に関する事項、その他の次世代育成支援対策に関する事項が盛り込まれ、大学全体で積極的な両立支援のための取組みを進めていくこととしています。

2. 育児休業制度について

育児休業には、大きく分けて「育児休業」と「育児部分休業」があります。いずれの場合も、育児休業を始めようとする1ヶ月前までに、育児休業申出書（育児部分休業の場合は、育児部分休業申出書）に必要な証明書類を添付して人事担当係へ提出してください。なお、申出の時点において子が出生していない場合にあっては、子の出生後2週間以内に育児休業対象児出生届に必要な証明書類を添付して人事担当係へ提出してください。

(1) 育児休業

職員は、事前に申し出て、3歳に満たない実子又は養子を養育するため、子が3歳に達する日（誕生日の前日）まで、身分を保有したまま育児休業をすることができます。非常勤職員については、これまで育児休業の対象とされていませんでしたが、平成17年4月に「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」が一部改正され、これに伴い、一定の範囲の期間雇用者は*注）、子が1歳に達する日まで（一定の場合には1歳6ヶ月に達する日まで）育児休業をすることができるようになりました。

ただし、次のような場合は、育児休業をすることができません。

ア. 休業職員の代替として、任期を定めて採用された場合

イ. 配偶者が職業に就いていない者（育児休業その他の休業により就業していない者及び1週間の就業日数が2日以下の者を含む。）で子を養育できる場合

ウ. 申出があった日から起算して1年以内に雇用関係が終了することが明らかな場合

エ. 1週間の就業日数が2日以下の場合

*注）育児休業の対象となる「一定の範囲の期間雇用者」とは、申出時点において次のいずれにも該当する

TOPICS

非常勤職員です。

- ① 本法人に引き続き雇用された期間が1年以上である者
- ② その養育する子が1歳に達する日（以下「1歳到達日」という。）を超えて引き続き雇用されること
が見込まれる者（当該子の1歳到達日から1年を経過する日までの間に、その雇用期間が満了し、かつ、当該雇用期間満了後引き続き再雇用されないことが明らかである者を除く。）

(2) 育児部分休業

育児部分休業とは、勤務時間の始め又は終わりにおいて、1日を通じて2時間の範囲内で、職員の託児の態様、通勤の状況等から必要とされる時間（30分単位）について勤務しないことができる制度です。育児部分休業は、常勤職員、非常勤職員とも、配偶者が職業に就いていない者（育児休業その他の休業により就業していない者及び1週間の就業日数が2日以下の者を含む。）で子を養育できる場合を除き、子が3歳に達する日まで取得することができます。

国立大学法人山口大学イコール・パートナーシップ委員会

委員長 脇條靖弘（人文学部）

男女共同参画WG

五島淑子（WG長・教育学部） 松原幸恵（教育学部） 甲斐一成（農学部）

田中伸明（医学部附属病院） 杉山美由紀（監査室） 小野静生（総務部）

池田浩弥子（学術情報部） 山岡恵美子（工学部）

学内連絡先 TEL：083-933-5017

E-mail：sh021@yamaguchi-u.ac.jp

私の授業

いま、日本文学

尾崎 千佳 助教授
人文学部言語文化学科 比較言語文化講座

日本文学という学問

わたくしは、日本の古典文学、特に、近世期（江戸時代）の文学を専攻分野として研究して来ました。共通教育では分野別科目のうち「日本文学」を、専門教育として人文学部における「日本文学概論」「日本文学史」「日本文学特殊講義」「日本文学講読」「日本文学演習」ほかの授業を担当しています。日本文学という学問領域は、ほんのひと昔前まで「国文学」と称され、日本人が日本文学をわがこととして学ぶ必須科目としてあり、大学であっても国文学科の重要性は自明とされていました。しかし、社会の国際化につれ、閉鎖性の打開をねらって「日本文学」と名称変更されたのみならず、その有用性を問われた国文学科・日本文学科は、いまや全国の大学から消滅しつつあります。幸いなことに、わが山口大学人文学部には日本語文化論コースが設置され、「国文学」研究の場が確保されていますが、大学で日本文学を学ぶことは、もはや当たり前ではあり得ません。

気ままな読書との違い

さて、専門教育における授業では、常に実践的であるよう意識しています。実践的とは、この場合、一次資料（原本）にあたって、くずし字翻読・語義註釈から作品の解釈に及び、文学史的位置づけに至る、全過程に関わることを意味します。講読や演習では、参加者全員が上記の全作業に従事し、調査結果を口頭発表します。くずし字が嫌いな人も、作品解釈が苦手な人もいますが、自分の好きなように読めばよい気ままな読書とは異なり、修練を経て適切な解釈にたどり着こうとする姿勢がぜひとも必要です。特に古典研究の場合、過去を遠くにながめやり、現代的観点で善し悪しを裁断する

ような態度は、厳に慎まなければなりません。江戸文学を理解するためには、可能な限り江戸時代人の心に近づくべく努めなければなりません。当時の姿を留める原本になるべく接し、当時の人々の眼に触れた字体で読むところからはじめるという方法は、わたくし独自の工夫でも何でもなく、国文学研究の伝統ですが、原本＝オリジナルの発する力を、学生たちは存外に新鮮な驚きを持って迎えます。

「わが空」を持つために

日本文学をとりまく研究環境の厳しさは、このようにして、日々、努力を積み重ねることだけでは解消されないでしょう。日本文学の研究に携わる者には、いま、その価値を内外に向けて発信する責任がありますし、何よりもまず、その発信の言葉を模索する必要があるように、わたくしには思われます。どのような言葉が説得力を持つか、若い世代とともに考えてみたくて、折にふれ、人文学部の学生に「あなたは、いま、なぜ、日本文学を学んでいるのですか？」という問いを発しています。日本文学不遇の現状が、彼ら彼女ら自身の根元的な拠り所の問題として、切実に受けとめられていることを示す真摯な回答のなかに、つぎのような言葉がありました。

寺山修司が歌ったように、

歌ひとつ覚えるたびに星ひとつ

熟れて灯れるわが空をもつ

という言葉をもっとに学んでいます。「歌ひとつ覚える」ため、でなく、「わが空をも」っていたいために、文学をやっているのだと思います。

くずし字を解読し、語義を釈し、ひたすらテキストに向う古典研究は、一字の判読、一語意の究明、一作品の読解を通して、過去に培われた精神世界の豊かさに接し、そのことによって、自らのうちにも揺るぎない精神世界を築こうとする営みなのだと、わたくしも思います。



授業風景



連絡先

TEL:083-933-5257

E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

ロバスト制御理論と、その応用 による人に優しい機械の実現



藤井 文武 助教授

大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
教育研究施設

ロバスト制御という学問

モデルベース制御理論という学問分野があります。制御したい対象物の動特性を表現する数式（数学モデル）を得て、そこから得られる情報を利用して「どうすれば目的を達成する制御系が構成できるのか？」を検討する学問です。工学系の学生が学部教育課程の中で履修する制御工学も、伝達関数と状態空間表現という「モデル」に基づく点でモデルベース制御理論の一つだと言えます。

しかし、制御方法を考えるときに使ったモデルと実物がずれるのは良くある話です。例えば街に行くバスに運転手しか乗っていない場合と立ち客もあふれるほどお客が乗っている場合、一方をモデル化してパワステの制御系を作ったとしたら他方の状況で問題が発生しないだろうか？装置自体が複雑で厳密なモデルを得るのが難しい場合、簡略なモデルを用いて制御系を作ると実物に適用した場合に問題が起きないか？など、こういう状況は意外に身近に存在するものです。これに対するモデルベース制御からの答えが「ロバスト制御理論」と呼ばれるものです。

多項式とロバスト制御

線形システムのロバスト制御理論の中には多項

式を道具として利用するものがあります。学生時代に所属した研究室でKharitonovの定理やエッジ定理・Tsytkinの図的 ℓ^p ロバスト安定判別法などのこの分野における有名な研究結果に出会い、次第に興味を惹かれるようになりました。しかしそれらの結果は出来上がった制御系が指定した意味でのロバスト性を有するか否かを解析するには有効でしたが、ロバスト制御系を設計する時の条件としては直接的には使いづらいものでした。多項式を利用した制御系設計は、極論すれば多項式係数の決定問題となります。そこで、制御系の性能と多項式の係数の関係を定める方法について研究を行い、多項式零点が指定円内に存在するような多項式係数を不等式の集合で表す方法を提案しました。制御の用語で言えば「多項式を用いたロバスト極配置設計の方法を提案した」ということになります。

手動制御系—人間中心の制御系設計—

制御工学という学問が、産業革命の頃を黎明として自動化・省力化を追いつめる過程と歩を同じくして発展してきたものであることは良く知られています。制御の発展がFAによる高効率・低コストの生産を可能とし、制御の適用分野も飛躍的に広がって、現代の繁栄の基礎を作りました。しかし、どんなに自動化が進もうとも、生活の主役である人間を取り去ることはできません。そんな考えから、人間と機械との関わりの中で人間に優しい機械を制御理論を応用して作れないかと考えるようになりました。人間がフィードバック制御系の構成要素となるこのような制御系のことを「手動制御系」と言います。

まずはじめに手がけたのは電動車椅子の操作性改善です。当時複数の国内メーカーからジョイスティックを操作用装置とした電動車椅子が市販されていましたが、試乗してみるとスティックを少し倒しただけで大きな速度変化が発生して正直怖いものでした。そこで、利用者にとって適切な応答速度の変化特性を設定可能で、利用時に過大な

加速度が発生して不快感を与えないような電動車椅子を実現しました。また、高齢者にとってはジョイスティックという装置自体が恐怖感を煽る原因の一つであろうから、見慣れたハンドル・アクセル・ブレーキに付け替えて、

駆動系の構成は車椅子のままで操舵機構もないけれど操縦感覚は自動車と同じになるように制御する「自動車運転感覚に近い電動車椅子」を試作し提案しています。



写真1：電動車椅子の操作性改善

最近では、手動制御系における人間の制御能力を表すパイロットモデル理論を踏まえ、より複雑・高度な制御課題における人間の制御能力を解析する研究を行ったり、聴覚を介した手動制御系の制御性能向上について実験研

究を行っています。これら一連の取り組みは「如何に人に優しい機械にできるか」という視点で共通しており、制御の応用により人間中心の機械の実現を目指そうとするものです。

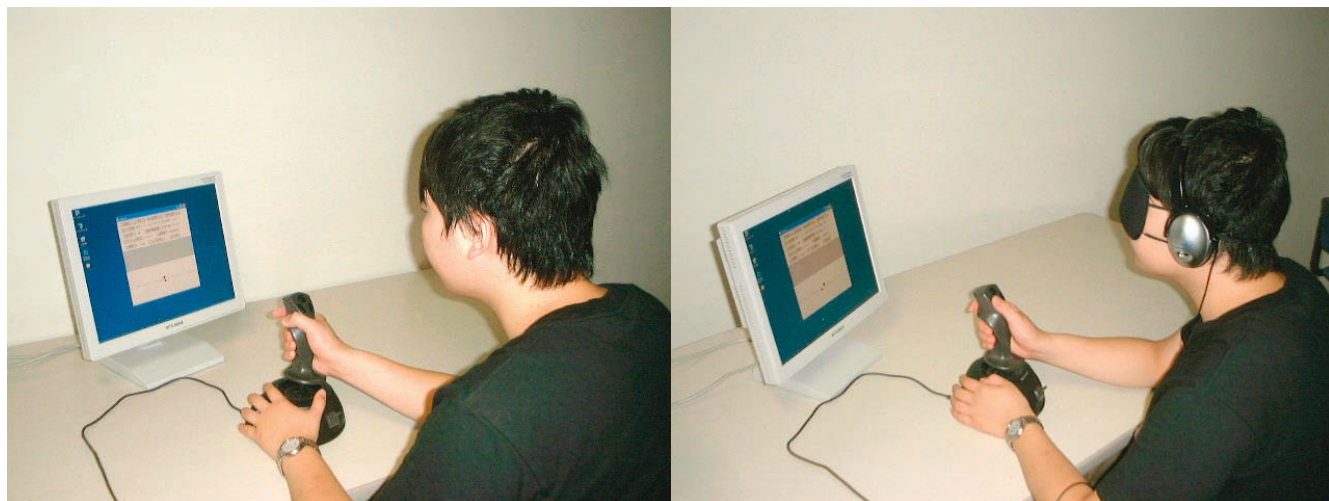


写真2：手動制御系の実験
(左：視覚により画面上の目標を追跡。右：聴覚情報により同一の課題を実行。)

連絡先
TEL:0836-85-9850
E-mail:ffujii@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

銀河中心核ブラックホールの活動を探る



鎗木 修 教授
理学部自然情報科学科物理学講座

研究の背景

我々の太陽系は天の川銀河に属しています。天の川銀河はすぐ近くのアンドロメダ銀河と同様に、渦巻き状の腕を持った渦状銀河です。宇宙にはこのほかに、腕のような構造を持たない楕円銀河も存在します。最近の研究により、これらの典型的な銀河の中心部には太陽の百万倍から十億倍のものの質量を持った超巨大ブラックホール（質量が巨大）が存在することがわかってきました。

銀河のうちのごく少数部分はその中心部が異常に活発で、電磁放射の広い周波数域にわたって大量のエネルギーを放出していることはすでによく知られており、それらは活動銀河中心核（AGN）と呼ばれています。その中で電波銀河と呼ばれるタイプのものでは、ジェットと呼ばれる細く絞られた高速プラズマ流の対が、しばしば銀河自身の規模を超えるスケールで観測されます（図1参照）。以前からAGNのエネルギー源はブラックホールであろうと予想されていましたが、とくに目立った活動性を示さない通常の銀河までもみなブラックホールを持っているとは予想外の発見でした。

さらに、近くにある通常銀河の中心部からの弱い電磁放射を調べてみると、広い周波数域に広がっていてほぼAGNとよく似たスペクトル構造を持っていること、また弱いながらジェット状の構造が見られる場合もあることがわかりました。つまり、AGNとその他の通常銀河の違いは、その中心にブラックホールがあるか無いかというような質的な違いというよりは、そこに供給されるガスの量の多少というような量的な違いが主な原因であろうということになります。

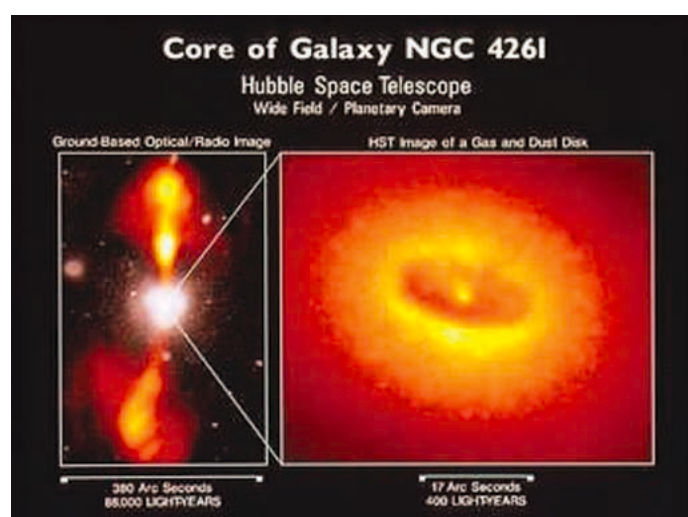


図1 銀河NGC 4261
 [全体像(左)]：可視光で見た銀河（白い部分）と電波で見たジェット（黄色～赤）の合成写真。
 [中心部の構造(右)]：星の光が冷たいガスで吸収されて黒っぽく見えます。その中心部で光っている小さな部分に、高温の降着円盤とブラックホールがあります。
 (credit: Walter Jaffe / Leiden Observatory, Holland Ford/JHU/STScI, and NASA)

研究の目標

遠方からブラックホールに向かって落下していく物質（ガス）は、発電所のダムに蓄えられた水のように落差に応じて重力エネルギーを開放し、それを電力のような別のタイプのエネルギーに変換する能力を持っています。銀河中心部のガスは一般に重力中心をきっちりと狙って入ってくるわけではないので、重力ポテンシャルの井戸の中で回転運動をすることになります。このとき隣同士に摩擦力が働けば、運動エネルギーの一部が熱に変換されて回転半径は徐々に小さくなり、物質は中心部に近づいて行きます。このように高温ガスは回転面内で円盤状に広がった構造になるため、降着円盤と呼ばれます。いわば宇宙の巨大なはずみ車です。

ところで、落下物質がすべてブラックホールに呑み込まれるわけではなく、その一部がジェットとなって噴出するのはなぜでしょうか。また、周囲からの物質の供給量が多ければジェットが顕著になるというわけでもなさそうです。ブラックホール自身の自転の大きさはジェット形成に影響するのでしょうか。これらの疑問を少しずつ解き明かしていきたいと思っています。

ブラックホール発電機模型

我々の研究の基本的アイディアは、この電離ガスのはずみ車が現実には宇宙の磁場の中で回転していることを重視して、むしろそれを直流発電機とみなそうというところにあります。この発電機モデルに基づいて、銀河核のうちの特別クラスであるAGNではなく、まずは「その他大勢」の通常銀河の中心核、およびそれらとスペクトル的にきわめて類似した構造を示す「電波銀河」の中心核の性質を統一的に理解しようという作戦です。「その他大勢」の示す性質にこそ、より基本的で普遍的なプロセスが反映されていると考えるからです。

降着円盤という良導体が磁場の中で回転するために生じる起電力は円盤内に直流電流を駆動し（図2参照）、その電流のジュール発熱で円盤は加熱されます。電流は降着円盤の外縁から繭（マユ）状

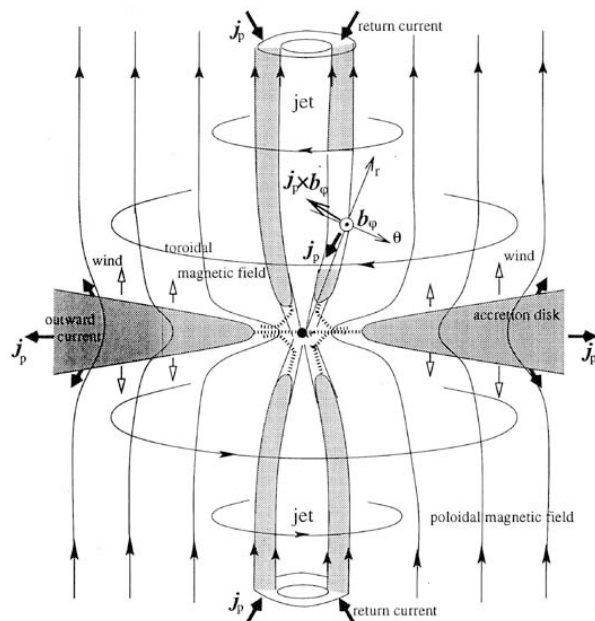


図2 銀河中心部の断面図
中央の小さな黒丸がブラックホール、左右の灰色の部分が降着円盤、中心軸近くの中空構造がジェットを表しています。円盤を貫く矢印付きの細い線は磁力線です。これらは円盤の回転のためにねじられ、内向きの流れのために中心方向にへこんでいます。ねじれ成分は環状の矢印で示されていますが、実際の磁力線はそれらの合成で、螺旋状になります。電流の向きは、黒の太い矢印で示されています。

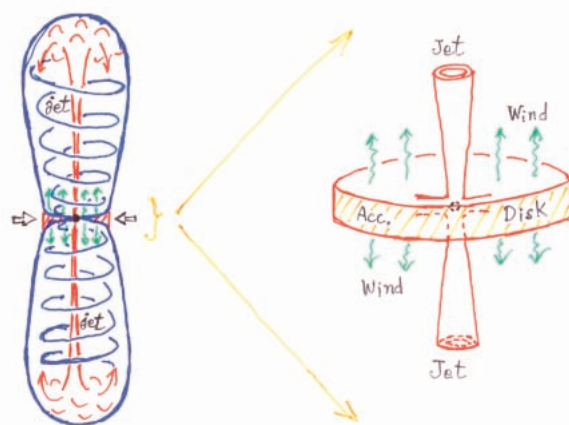


図3 円盤・ジェットの全体像
[右]：降着円盤内を落下してきたガスは、円盤内縁でその一部がジェットとして上下方向に立ち上がります。ジェットのほかに、降着円盤表面からはウインド（風）と呼ばれる高温希薄なガス流も生じます。
[左]：これらの高温ガスとねじれた磁力線は、外界とは混合せずに、薄い境界層内に囲まれた繭状構造を形成すると考えられます。降着物質は円盤外縁部（図中の矢印）からだけ流れ込みます。

構造の鞘（前頁図3参照）を経て極軸（中心軸）付近に達し、帰還電流として円盤内縁部に戻ってきます。極軸付近に集中した電流に働く磁気力は、この部分にある電離ガスを外向きに加速すると共に細く絞り込むように作用します（前頁図2参照）。これがジェット生成機構の本質です。つまり、ジェットとは降着円盤発電機によって駆動されるリニアモーターに相当するわけです。

このようにして、発電機モデルは降着円盤内縁部からのジェットの発生を、大局的な電流の循環という形で自然に説明できることがわかりました。また、このモデルに基づいて円盤からの電磁放射スペクトルを計算し、天の川銀河や電波銀河の中心核に対する観測結果を、満足のいく精度で再現することもできました。通常銀河と電波銀河のスペクトルの類似性は、これらのタイプの中心核ではブラックホールへの物質供給量（質量降着率）がそれぞれの標準限界値に比べてはるかに小さいということであまりうまく説明できます。他にも、降着円盤の大きさを理論的に予言し観測値と良い一致を得たこと、磁場の存在が物質の降着率（流入量）を抑制する効果があることを定量的に示せました。この降着率の抑制現象は、観測的には知られていたもののその理由が明らかではなかったことです。

今後の課題

これまでの研究で、質量降着率が基準限界値に比べて非常に小さい場合に関しては、磁場中の降

着円盤の構造や性質についてかなり良く理解できました。実はこのケースは、電波銀河の観測が示唆するように、雄大なジェットが発達しやすい環境にあるようです。したがって、次の課題はジェットの形成と構造についての定量的な議論を深め、特に降着円盤内縁部からの立ち上がりの過程の詳細を明らかにすると共に、降着率を含めて他にもどんな物理要素がジェットの強弱を左右するのかについて解き明かしていくことです。

すでに、根元から十分離れた領域でのジェット構造については解決した部分もありますが、重要なのはやはり根元の部分です。また中心部には、ジェットにならずにそのままブラックホールまで落下していくプラズマ流もあるわけです。この部分の流れの構造とそこからの電磁放射についても解明する必要があります。この領域はブラックホールのきわめて近傍にあるため、これまでは無視できた一般相対論的効果を直接考慮に入れる必要もあります。これにより、ブラックホールの自転の影響なども議論できるわけです。さらにはまた、質量降着率がずっと大きい場合の降着円盤の構造や性質と他のいろいろなタイプのAGNとの関連性の解明など、多くの課題が残されています。

連絡先

TEL:083-933-5671

E-mail:kaburaki@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

『愉快な日本語講座』

(小学館 2005年7月刊行)



一枚の質問カードに、授業に対する注文の他に、日本語の音声・アクセント、方言など、ことばに関する疑問や意見を書いてもらう。翌週、それら学生の疑問や意見の内容を紹介し、それに、ねじり鉢巻きで考えた私の意見を添えます。すると、それに対してすぐ賛成や反対の意見が返ってきます。この方法は、学生にとっても、確かな手応え(授業で出た疑問が授業の場で解決できる、自分の意見が披露されるのが嬉しい、他の人がどんな意見を持っているかを知ることができる)が感じられたようです。この試みは、日本語をめぐっての「一対一」のキャッチボールだったのです。私も「一球入魂」でした。本書は、そんな共通教育「言語学」を中心に行った授業風景をまとめたものです。「山大ここにあり」です。文系も理系も、山大生のことばへの感性には優れたものがありました。「今時の若者」はなかなか捨てたものではありません。山口大学も横文字外来語だらけ、「そうはいかのきんたま」は不思議に迫力満点、山口大学は「口大」なの?等々。目次の一部です。

方言や古語も含め日本語を勉強することの一番の魅力、それは、日本人(その姿、その心、思い、考え方)が色濃く見えてくる点です。日本語は日本人をいっぱい知ることのできる宝の山です。本書が若い世代に願うこと、それは、「折り目正しい日本語」を身につけてほしい、その上でことばの世界に遊ぶもよしです。どなたかのことばにありました、大人は、物分かりよくではなく「子供の前に立ちはだかる大きな壁にならなくてはならない。」と思います。ことばの面でもそうです。日本語学は人文学の一分野です。人文学は自分を知る、見つめる学問です。すぐに役立つ戦力にはなり得ないかもしれませんが、時代を生き抜いていく継戦能力が培えます。

表紙の絵が自分で言うのは何ですがいたって評判です。わたせせいぞうさんのイラスト「東京ステーション」です。本の内容はさて置いて机の端にそっと立てかけると、それだけで部屋がよい雰囲気になります。

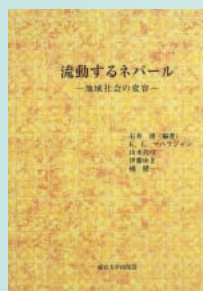
添田建治郎 教授 人文学部言語文化学科

TEL:083-933-5249 E-mail:soeken@yamaguchi-u.ac.jp

『流動するネパールー地域社会の変容ー』

(東京大学出版会 2005年7月)

石井 溥(編著) K. L. マハラジャン、山本真弓、伊藤ゆき、橘健一(共著)



本書は、多言語多民族で経済格差の著しいネパール社会の今日のありようを、包括的に捉えようとした学術書です。その構成は二部に分かれていて、第一部「ネパールの形成」は政治、経済、社会、文化、生活の五章から成り、石井、マハラジャンおよび筆者(山本)の3人が分担して執筆しています。また、第二部「変化の中の地域社会」では、第一章が「首都圏の変容」で山本が担当、第二章、第三章、第四章がそれぞれ「盆地の集落」「山地の村落」「南部平野の集落」で、それぞれの著者がフィールド調査に基づいて分析しています。第五章の結論は、石井、マハラジャンと山本との共同執筆です。参考文献15頁を除いた本文397頁のうち、山本の執筆部分は合計97頁にのびます(うち、15頁は共同執筆)。

本書の特徴は、ネパールの都市部に光を当てたことです。西欧および日本の研究者はこれまでネパールの都市に注目してきませんでした。それは、本書結論部分の言葉を引用すれば「研究者自身にとっての『他者』としてのネパールは、研究者が生きる社会と対極にあるものとしてのネパールの姿の中に求められてきた」からだと言えるでしょう。本書の成果をきっかけに、ネパールを「他者」としてではなく、わたしたちが生きる世界の一部として捉えるような視点をもったネパール研究が推進されることを望んでやみません。なお、本書の研究のうち、石井、マハラジャンおよび山本の3人のフィールド調査は、三菱財団研究助成金を得て行われたものです。

山本真弓 助教授 人文学部人文社会学科 社会情報論コース

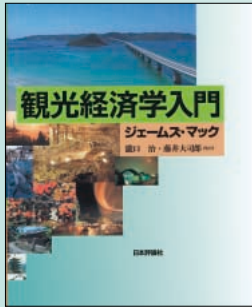
TEL:083-933-5242 E-mail:mayumi@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

『観光経済学入門』

(J.マック著、瀧口治・藤井大司郎監訳、日本評論社、2005年9月)

この春、国立大学初の観光の学科として山口大学経済学部が発足した「観光政策学科」の重要な教育目的のひとつは、観光を経済学で科学分析し、検証・評価に耐える観光政策や観光企画を立案する能力を身につけさせることにあります。意外なことですが、観光の学科が経済学部に設けられたのは国内では初めてですし、海外にもほとんど例がないようです。産業政策の中でも「あたりはずれ」が多いのは観光の分野ですし、そもそも「観光産業」そのものが確立した産業分類をもたないのが現実です。



(装丁は、思いつき「山口」
尽くしました。)

本書は、昨年、観光政策学科を立ち上げる準備のための調査でハワイ大学を訪れた際に知遇を得た、同大経済学部教授のジェームス・マック博士の著書「Tourism and the Economy」の日本語翻訳版です。新学科の誕生にふさわしい初仕事として、本学経済学部の教員13人が翻訳に当たりました。初めて観光を学ぼうとする大学学部生や一般の読者向けの観光経済学の教科書で、経済学の理論や方法を解説しつつ観光を論じているので、経済現象としての観光の特質が初学者にも無理なく理解できる内容となっています。

経済学とは一見縁遠く見えていた観光を対象にしてみると、経済の教育研究を担当している私たちでも、「経済学はこんなふうに使うものなのか」と改めて気付かされることがあります。学生諸君にとっても、抽象的で難解と思われがちな経済学の論理や手法を理解するのに、案外、観光経済学が一番の早道かも知れません。

今年度の共通教育総合科目「観光と経済」では、早速この本をテキストにしていますが、旅の欲求、ビジネスと情報、人の訪れ・受け入れ合い、国や地域の文化・歴史、宿泊・交通、まちづくり・景観、自然環境の活用と保全、テロリズムの脅威など、人文・社会・自然が文字通り「総合された応用」科目にふさわしい内容となっています。21世紀の現代、大学で「観光」を学ぶ意義があるのは、人にとって観光が「今居るこの場所では満たせない大切な人生・生活の一部」だからではないでしょうか。この本を通じて、そしてあまりにも身近な「観光」を学問することを通して、いろんなものが見えてきます。

藤井大司郎 教授 経済学部

TEL:083-933-5531 E-mail:fujy@yamaguchi-u.ac.jp

『山口県の活断層——地震災害の減災をめざして』

(近未来社 2005年8月5日発行)



平成7(1995)年1月17日午前5時46分に阪神・淡路大震災を誘発した兵庫県南部地震が起きて、早や10年が過ぎました。この後、平成12年に鳥取県西部地震、翌13年には芸予地震が相次いで発生したことから、日本列島が地震の活動期に入ったと推定されます。このことは、平成16年新潟県中越地震と平成17年福岡県西方沖の地震の続発によって裏づけられます。

本書ではまず、私が提唱したマイクロプレートモデルの中で断層運動や地震活動を位置づけるとともに、活断層と地震に関する基礎的な事項を解説します。そして、事例研究として「山口県内の活断層と地震」を取り上げ、活断層から発生する内陸地震の危険度評価を試みます。



本書の読者として、活断層と地震に関心を持つ一般の方々や、そのことを学びたいと思っている高校生～大学生、さらに自然災害やその防災対策に関連した実務に携わっている技術者や地方自治体の防災担当者の方々を想定しています。多くの方々に読んでいただき、活断層と地震に関して正しい認識をもってもらうことを切望します。このことが、地震防災につながると確信しています。

金折裕司 教授 理学部化学・地球科学科

TEL:083-933-5753 E-mail:kanaori@yamaguchi-u.ac.jp

HP: <http://ykl.sci.yamaguchi-u.ac.jp/>

教員から寄せられた著書

『脳神経外科リスクマネジメント』

(株式会社中外医学社 2005年5月15日初版発行)



医療事故は毎日のように報道されていますが、みなさん「合併症」と「医療事故」の違いを知っていますか？ …合併症とは現在の医療水準では避けることができないイベントです。例えば非常に高齢の患者さんに手術を行わなければならない状況では、いかにエキスパートでも合併症は起こし得ます。これに対し医療事故とは現在の医療水準ならば避けることができるイベントで、過失と不可抗力による事故を含みます。本書はそんな基本事項から始まり、脳神経外科医療で起こりうるリスクに対して、どうマネジメントすべきかを示したものです。

ほとんどの医学書、医学雑誌は成功した事例の紹介です。本書にあるような「失敗例」はなるべく公表を控えるものであるうえ、個人情報保護を保護するという配慮が必要なので、実際に出版されるケースは稀でした。ポーランドのアウシュヴィッツ収容所、広島原爆ドームは「負の遺産」としてユネスコ世界遺産に登録されています。規模こそ違いますが、起こってしまった事故を反省すると同時に、その情報を共有し、再発防止に役立てる点において、本書もまた「負の遺産」であると思っています。

この本の特徴

1. 一般論にとどまらず、現場で起こった事例をもとに実践的にリスクマネジメントのあり方を示しています。
2. 手術でのリスクに最もボリュームを割き、そのほかに検査、病棟、外来でのリスクを載せています。
3. 医療従事者向けです。

編集・執筆 鈴木倫保 教授 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:michi@yamaguchi-u.ac.jp
執筆 藤澤博亮 講師 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:hirofuji@yamaguchi-u.ac.jp
野村貞宏 助手 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:snomura@yamaguchi-u.ac.jp

平成17年度公開講座のお知らせ

講座名	受講対象者	開設期間	時間帯
ヒューマンスクールー宗教と文化ー	市民一般	10/5・19、11/2・16・30、12/14	13:30～15:00

お問い合わせ

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL (083) 933-5150 FAX (083) 933-5154

E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

『脳神経外科リスクマネジメント』

(株式会社中外医学社 2005年5月15日初版発行)



医療事故は毎日のように報道されていますが、みなさん「合併症」と「医療事故」の違いを知っていますか？ …合併症とは現在の医療水準では避けることができないイベントです。例えば非常に高齢の患者さんに手術を行わなければならない状況では、いかにエキスパートでも合併症は起こし得ます。これに対し医療事故とは現在の医療水準ならば避けることができるイベントで、過失と不可抗力による事故を含みます。本書はそんな基本事項から始まり、脳神経外科医療で起こりうるリスクに対して、どうマネジメントすべきかを示したものです。

ほとんどの医学書、医学雑誌は成功した事例の紹介です。本書にあるような「失敗例」はなるべく公表を控えるものであるうえ、個人情報保護を保護するという配慮が必要なので、実際に出版されるケースは稀でした。ポーランドのアウシュヴィッツ収容所、広島原爆ドームは「負の遺産」としてユネスコ世界遺産に登録されています。規模こそ違いますが、起こってしまった事故を反省すると同時に、その情報を共有し、再発防止に役立てる点において、本書もまた「負の遺産」であると思っています。

この本の特徴

1. 一般論にとどまらず、現場で起こった事例をもとに実践的にリスクマネジメントのあり方を示しています。
2. 手術でのリスクに最もボリュームを割き、そのほかに検査、病棟、外来でのリスクを載せています。
3. 医療従事者向けです。

編集・執筆 鈴木倫保 教授 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:michi@yamaguchi-u.ac.jp
執筆 藤澤博亮 講師 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:hirofuji@yamaguchi-u.ac.jp
野村貞宏 助手 医学部脳神経病態学脳神経外科
TEL:0836-22-2295 Email:snomura@yamaguchi-u.ac.jp

平成17年度公開講座のお知らせ

講座名	受講対象者	開設期間	時間帯
ヒューマンスクールー宗教と文化ー	市民一般	10/5・19、11/2・16・30、12/14	13:30～15:00

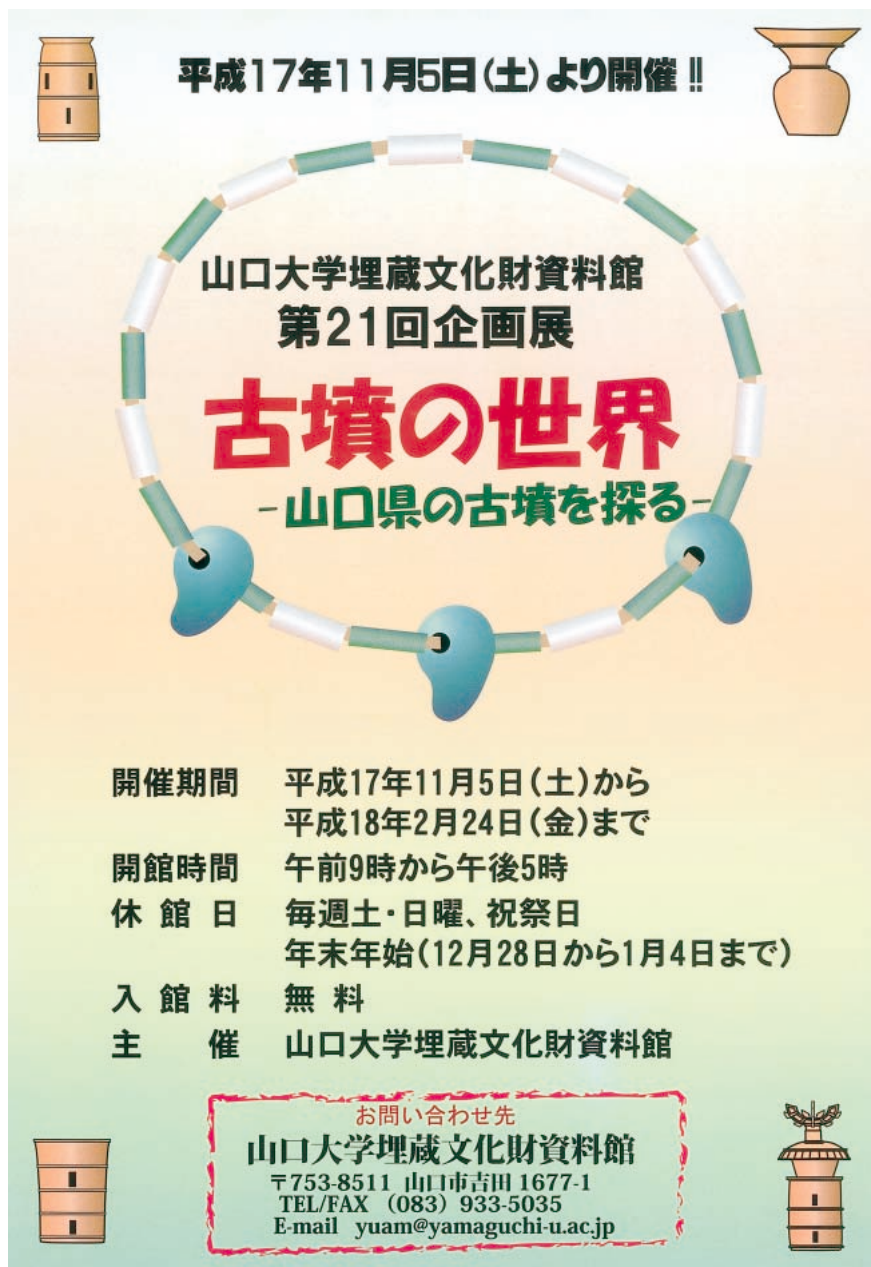
お問い合わせ

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL (083) 933-5150 FAX (083) 933-5154

E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp



平成17年11月5日(土)より開催!!

山口大学埋蔵文化財資料館
第21回企画展

古墳の世界

- 山口県のお古墳を探る -

開催期間 平成17年11月5日(土)から
平成18年2月24日(金)まで

開館時間 午前9時から午後5時

休館日 毎週土・日曜、祝祭日
年末年始(12月28日から1月4日まで)

入館料 無 料

主 催 山口大学埋蔵文化財資料館

お問い合わせ先
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
TEL/FAX (083) 933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp



YU Information
ワイユエインフォメーション 2005年11月号
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yu>

就職特集
“ハローワーク 山口大学”



NO. 77

表紙 デザイン

教育学部附属山口中学校 1年
平山 都

「和華祭」

「和」や「祭り」の雰囲気と「華やかさ」を意識して描きました。下書きの段階で、だるまの顔が同じになって単調にならないように、ひとつひとつ微妙に違うものにするのに苦労しました。

新聞掲載された山大・地域から見た山大

7月

- ◆ インタビュー特集
児童向け「防災本」を出版
山口大学工学部教授 山本哲朗氏
(日本時事評論:1日)
- ◆ どう考える **高校爆発物事件**
子の心 察する教師に
山口大教育学部教授 林 徳治さん (朝日:1日)
- ◆ 山口大学理学部 サマースクール
「高校生チャレンジコース」
「社会人ブラッシュアップコース」 (サンデー山口:1日)
- ◆ 聞かせて
山口大学七夕祭実行委員長 平生 清悟さん
(サンデー山口:1日)
- ◆ ジュニア科学教室楽しもう
7月23日ー8月27日 県内15会場
多彩なテーマで実験や講義、現場見学
(宇部日報:1日)
- ◆ 県産小麦のパンに学ぶ
葡萄の森で山口大公開講座
地産地消や利用促進探る (宇部日報:1日)
- ◆ 地区民千人が一斉清掃
平川で「ふれあいクリーン作戦」ー山大生も参加ー
(サンデー山口:3日)
- ◆ 山大が学長を公募
独立行政法人化 経営感覚など重視 ー12月決定ー
(中国・山口・日経:6日、朝日・毎日:7日、宇部日報:8日)
- ◆ 山大が入学選抜要項発表
理学部改編、4学科に 一定員40人減ー
(山口:6日、朝日:7日)
- ◆ 護憲運動のネットワーク ー10日設立総会ー
山大教授ら呼び掛けで (山口:8日)
- ◆ 友好に役立てたい **山口大院生の2人**
日中韓学生らの歴史認識を比較調査
靖国、9条など13項目 (山口:8日)
- ◆ 学力低下・いじめ・不登校……問題複雑化
良い先生育成 知恵絞る ー大学、文科省へ101案ー
ちゃぶ台囲み悩みぶつける 山口大学教育学部
(朝日:20日)
- ◆ 「特色ある大学」に47件
テーマ 「教育方法」「学習・課外活動への支援」
(毎日・日経:23日)
- ◆ 広がる「観光」系学部
成長産業期待 21大学が設置 (山口:23日)
- ◆ 山大付属病院で納涼コンサート ー大正琴と軽音楽ー
(山口:23日)
- ◆ 県人口増へ発想転換を
山口市でフォーラム 研究者ら6人が提言
ー貞木展生・山口大名誉教授「2015年には県人口が
136万人を割り込む」と報告 (毎日:27日)

- ◆ 県政改革を加速
推進委が初会合 会長に加藤学長 (宇部日報:27日)
- ◆ 喜び共感し表現力を獲得
「発達障害」児支援の試み
イルカと「動物介在療法」ー山口大学教育学部ー
(毎日:28日)
- ◆ 医学部目指す高校生ら対象
8月6日に「医師を理解するセミナー」
ー山口大学医学部ー (サンデー山口:29日)
- ◆ 生物学の世界的な賞を受賞
国際原生動物学会議 日本人初のベスト賞
東新川町の児玉有紀さん(山大理工学大学院生)
(宇部日報:29日、山口:8月1日)
- ◆ いきいき美人になろう!
女性のための健康講座
ー更年期障害、乳がん、尿失禁ー
山口大学エクステンションセンター主催・山口大学医学
部スタッフが講義と実習
9月2日「乳がんをもっと知ろう!」(講師=附属病院第二外科
医師・長島由紀子氏)
9月7日「更年期の性」(保健学科教授・田中満由美氏)
「現代のSTD(性感染症)」(保健学科助教授・上田
順子氏)
9月9日「すこやかに生きる～女性の尿失禁について」(保健
学科教授・東玲子氏)
「骨盤底筋体操」(保健学科講師・村上京子氏)
9月14日「中高年期の栄養管理」(附属病院栄養治療部副
部長・田坂克子氏)
「自分の血液検査値をもっと知ろう」(保健学科助教
授・岡野こずえ氏)
9月16日「更年期と更年期障害」および「ホルモン補充療法
ってなに?」(附属病院産婦人科医師・江本智子氏)
9月21日「女性のメンタルヘルス」(学生相談所臨床心理士・
今井佳子氏) (サンデー山口:30日、朝日:8月11日)

- ◆ **新刊から** 講義を再現 言葉読み解く
「愉快的な日本語講座～かけがえのないことば、日本語～
山口大学人文学部教授 添田建治郎氏
(読売・西日本:31日)

8月

- ◆ 125人自ら記した被爆 山口「ゆだ苑」
「一人一筆運動」15年の集大成
山口大名誉教授 貞木展生さん (山口:2日)
- ◆ ソーラーカーレース鈴鹿
山口大チームが5年ぶり出場へ
「万全の準備で上位 目指す」 (読売:2日)
- ◆ 秋吉台に深さ100メートル以上の洞くつ
ー山口大理学部と秋吉台科学博物館の調査団ー
昨年4月発見の竪穴 多数の化石、学術的価値も
(山口:3日、毎日・朝日・山口・読売:11日)
- ◆ 山大マンドリンクラブOB 4年に一度の“おいでませ”
あす、定期演奏会 (サンデー山口:5日)
- ◆ 医療イン・フォーカス 患者から見た山口大・先端治療
第三部 肝臓がんにも挑む
ー山口大第2外科教授岡正朗さんー

①切開手術 安全性向上、再発率も低く 患者の肝機能に合わせた確に (宇部日報:8日)

◆医療イン・フォーカス 患者から見た山口大・先端治療
第三部 肝臓がんにも挑む
一山口大第一内科講師 山崎隆弘さんー
②ラジオ波療法
100度の高熱でがん組織焼く
昨年保険適用、急速に普及へ
今後の内科治療の柱に (宇部日報:9日)

◆医療イン・フォーカス 患者から見た山口大・先端治療
第三部 肝臓がんにも挑む
一山口大第一内科教授坂井田功さんー
③肝動脈塞栓療法
“兵糧攻め”で病巣壊死
再発の危険減らす療法の追加も (宇部日報:10日)

◆雰囲気、目標つかんで
野田学園高 山大到70人体験入学 (山口:12日)

◆「木工入門」参加を 一山大公開講座ー
17日まで募集 (山口:12日)

◆男女共同参画講演会
「人とひと認め合う それが始まり～男女共同参画」
山口大学小谷典子教授(8月21日)
(サンデー山口:13日)

◆全日本吹奏楽コンクール中国大会 26日から松江市で
(朝日:15日)

◆山岡教授が呼びかけ
外来魚が住む池 教えて下さい 一山岡郁雄山口
大名誉教授ー (サンデー山口:14日)

◆風のととき 一山口大学工学部副学部長 三浦房紀氏ー
公共工事 (宇部日報:15日)

◆宇部市大学開放講座 一來月12日からー
生命、歴史など「時間」テーマ
10月30日は門司に研修視察
9月12日＝「生命から考えた時間一時間の旅へようこそ」
井上慎一(山口大時間学研究所教授)
10月17日＝「時間はどこまで正確に測られるか」
藤沢健太(山口大時間学研究所・理学部助教授)
10月24日＝「流される時にさらされる生命一進化と絶滅」
鎌田祥仁(山口大時間学研究所助教授)
11月7日＝「古代中国の時間観念について」
高木智見(山口大文学部教授)
11月21日＝「現代社会における社会的時間一高齢化社会の時間の有効な利用法は？」
辻正二(山口大時間学研究所・人文学部教授)
11月28日＝「いざ災害が発生した時に、あなたは何かができますか?一地域でできることを考えてみよう」
鈴木素之(山口大工学部助手)
(宇部日報:16日)

◆山大が日韓交流シンポ
24日、萩で学生ら討論 (山口大経済学部主催)
(山口:18日)

◆活断層を分かりやすく
山口大理学部の金折教授が書き下ろし
「地震災害を食い止めたい」
(宇部日報:19日、サンデー山口:9月11日)

◆鴻文会が公開講演 (サンデー山口:19日)

◆山大付属病院女性診療外来
乳がん手術後 補正下着など説明会
来月27日 院外患者も受け入れ (宇部日報:24日)

◆88国立大黒字1100億円
法人化89校04年度決算 経営努力分54億円
山口大は21億円 (日経:20日、中国・山口:24日)

◆山大と防府市共催 公開講座に参加を
9、10月「生活習慣病と運動」 (山口:25日)

◆街かど
親子で考えた防災体験教室
一山口大工学部 山本哲朗教授ー (毎日:26日)

◆中学教員向け講義配信
宇部市・山口大 TV会議、8校に (日経:26日)

◆山口 さーくる広場 山口大学よさこいやっさん!!
(サンデー山口:27日)

◆山大実施、経験語る「ちゃぶ台ルーム」も
教員養成34件選定 一文科省支援へー (山口:30日)

◆「日韓交流は学生の力で」
山大と仁荷大 萩でシンポジウム
(主催・山口大経済学部) (毎日:30日)

◆新天町に巨大な壁画
11月末完成予定 山大工学部生ら力作
(宇部日報:31日)

9月

◆急速に拡大する竹林 一山本哲朗教授研究室が写真展ー
「強固な地盤ではない」実態紹介に市民ら関心
(宇部日報:6日)

◆あすから日本港湾経済学会全国大会
一山大経済学部でー (山口:7日)

◆救急功労者として消防庁長官表彰に
山大医学部の前川教授 (山口:8日)

◆宗教と文化 / 災害 / 語学など 一山大が受講生募集ー
「ヒューマン・スクール 宗教と文化」
(10月5日ー12月14日、隔週水曜日計6回)
「山口四億年史大地の恩恵と災害」
(10月8日ー11月26日、毎週土曜日計8回)
「現代文化コース 現代アメリカ社会と歴史」
(10月8日ー29日、毎週土曜日計4回)
「外国語学習コース 中国語発音教室」
(10月8日ー11月26日、毎週土曜日計8回)
(山口:9日)

◆教師力養う 「ちゃぶ台」で経験共有
教育ルネサンス (読売:10日)

◆「骨と関節の日」フェアと市民講座 一18日文化会館ー

田口敏彦山口大医学部教授ら (宇部日報:12日)

- ◆事業化へ向け着々 ー知的クラスター本部会議ー
白色LED用いた医療機器など
「シナリオ」づくり開始 (宇部日報:14日)

- ◆山大大学院技術経営研究科
第2期生を募集 出願期間来月3ー7日 (山口:15日)

- ◆ 山大大生が情報誌「クスクス」創刊
地域資源の掘り起こしに役 (宇部日報:15日)

- ◆ 日本語習得を目指す
外国人のための講座に30人 後期スタート
(宇部日報:15日)

- ◆山大大学院技術経営研究科
第2期生を募集 出願期間来月3ー7日
(山口:15日)

- ◆ 山大大と県立大が音の“競演”
初企画あす、地域に開かれたライブ
パソコンを駆使した映像も (サンデー山口:16日)

- ◆ 文科省評価委 山口大は「まずまず」
法人化後の運営、着実な成果 (宇部日報:21日)

- ◆ 教育と観光分野 山大大・山口市連携
地域発展へ相互協力 (朝日・読売・日経・山口:29日)

包括的な災害対策を
ー山口大学工 学部山本哲朗教授ー (山口:14日)

- ◆山口大経済学部学術講演会 (毎日:13日)

- ◆ 山口大学秋の講演会「韓国、そして韓国人」
ー山口大学人文学部ー
(朝日:14日、サンデー山口:26日)

- ◆ 献体者の慰霊祭234人の冥福祈る ー山口大医学部ー
遺族や山大大関係者ら (朝日:15日)

- ◆ 「生き方早くから考えて」 ー山口大経済学部ー
山口大で就職講演会 (読売:20日)

- ◆ 進むエコキャンパス化
「地球に優しく」合い言葉に
ー山大大工学部でも今年から本格的にー
(宇部日報:21日)

- ◆ 学長候補適任者加藤氏と丸本氏
山口大、教職員意向投票実施へ
(山口・毎日・朝日:26日、宇部日報:27日)

- ◆中韓協定校と10日から交流 ー山口大ー
(山口:15日)

- ◆山口大医学系の教育プログラム
文科省の魅力ある大学院
イニシアティブに採択 (宇部日報:27日)

10月

- ◆ 救急現場で医学生実習
消防本部初の引き受け 訓練にも積極参加
(宇部日報:4日)

- ◆資金提供など「研究特任」認定 ー山口大ー
医学部の前川教授ら3人 (宇部日報:4日)

- ◆山口大特任教員新たに3人認定 ー額額教授らー
(朝日:4日、山口:5日)

- ◆小型燃料電池向け電解質膜
ーメタノール高濃度もOKー
山口大が高出力型 ー山口大学岡本健一特命教授ー
(日経:5日)

- ◆山口大専門職大学院 2期生を募集
技術経営のプロに
願書受け付け7日まで (読売:5日)

- ◆山大大センターと防府市教委
生涯学習連携で調印 (山口:5日、毎日:6日)

- ◆「地福は活断層」確認 ー山大大研究班ー
阿東 篠目で別の露頭発見
(読売・山口:8日、朝日・山口:10日)

- ◆高まれ環境意識!
山口大工学部生 買い物「エコバッグ」製作
来週から 医学部や本部でも販売
(宇部日報:12日、山口:14日)

- ◆寄稿「防災立国日本を目指して」

編集後記

10年ほど前でしたか、ある自治体の首長が「ハローワーク」を知らなかった、という報道がありましたが、最近では「13歳のハローワーク」というベスト・セラーも出ていることですので、そんなこともないでしょうが、ひょっとしたら若い人の中には知らないという人がいるかも知れません。今号のキャッチコピーを「ハローワーク山口大学」としてしまいましたが、大学とハローワークを一緒にするのはけしからん、と双方からお叱りがくるかも知れません。

それでも、知らない学生さんがいたら、なんだろう、と思って目を通してくれるのではないかと期待しています。編集責任者としては、このキャッチコピーで学生さんや保護者の皆さんに少しでも読んで頂けるなら、そして、学生支援センターを中心とする本学「就活」支援の最近の取り組みがいかに頼りになるものであるかを知って頂けるなら、何よりと考えています。

(藤井 大司郎)

©山口大学ホームページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報第七十七号

平成十七年十一月三十日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部 総務課)

住所…山口市吉田一六七七一

電話…(083) 933-5007

FAX…(083) 933-5013

E-mail sho11@yamaguchi-u.ac.jp

印刷…有限会社三共印刷

広報戦略委員会委員

大坂 英雄 (企画広報担当副学長)

小谷 典子 (人文学部 広報担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

杉山 緑 (教育学部)

藤井 大司郎 (経済学部)

白石 清 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

三浦 房紀 (工学部)

山田 守 (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (学術情報機構)

杉井 学 (学術情報機構)

井上 重巳 (事務局)

仁科 幸雄 (事務局)